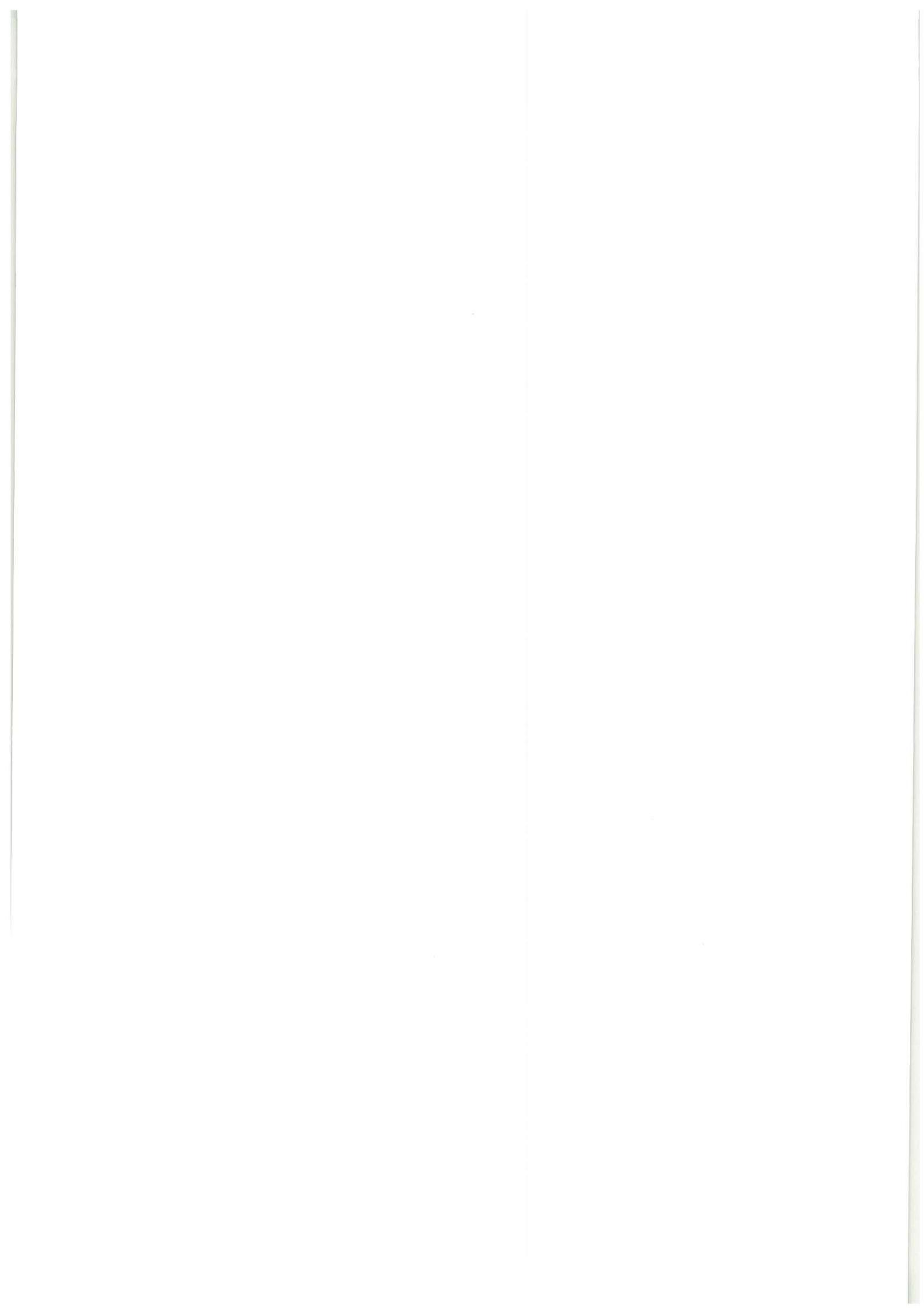


# 第2次久米島町総合計画 基本構想

2016 - 2025

夢  
つむぐ  
島





第2次久米島町総合計画  
—基本構想—

## 町長あいさつ

久米島がひとつになって10年あまり。

今、大きな転換点を迎えてます。

これは久米島だけに起きていることではなく、日本全体も、戦後70年という節目を迎え、政治の分野においても経済分野においても、私たちをとりまく社会状況全体は相互に関連しあいながら、大きな音をたてて変化しています。

沖縄県も復帰から40余年、未来への舵取りを県民ひとりひとりが参画しながら創りだそうとする動きも活発になっています。



ものづくりを中心とした高度経済成長がバブル崩壊で破綻し、戦後さまざまな技術の発展によって、国際社会、つまり地球全体が、県境や国境を瞬時に越えて情報や想いを共有できる時代です。世界も若者世代を中心に、これまで「豊かさ」をはかる重要な目盛りだと信じられてきた「経済力」にも疑問が投げかけられ、生き方、働き方に変化が見られ始めています。

これまで「当たり前」だと思っていた「人生の幸せ」や「地域社会の豊かさ」なども、社会の『価値軸』そのものが揺らぎを見せ始めるなかで、改めて問い合わせなおされていると言っても良いと思います。

このように揺れ動く時代の中には、私たち久米島も、『夢つむぐ島』を拓くためには、ふれずには、独自の豊かさを築いていくことではないかと考えます。

第2次久米島町総合計画では、住民の意見・アイデアを基盤とした計画づくりを行ないました。未来づくりの主役である中学生、高校生、子育て中の母さんたちをはじめ、教育、医療、農業、漁業、観光などさまざまな分野に携わる住民が、共に未来を見据えて寄せた想いがこの計画書には詰まっています。

久米島らしい新しい方向性を見いだす第2次総合計画の実現は、住民の暮らしやすい島を実現するのはもちろんのこと、それこそが、同時に、日本にして世界に開かれ、多くの人々が集う島づくりの実現に繋がるのだと信じます。

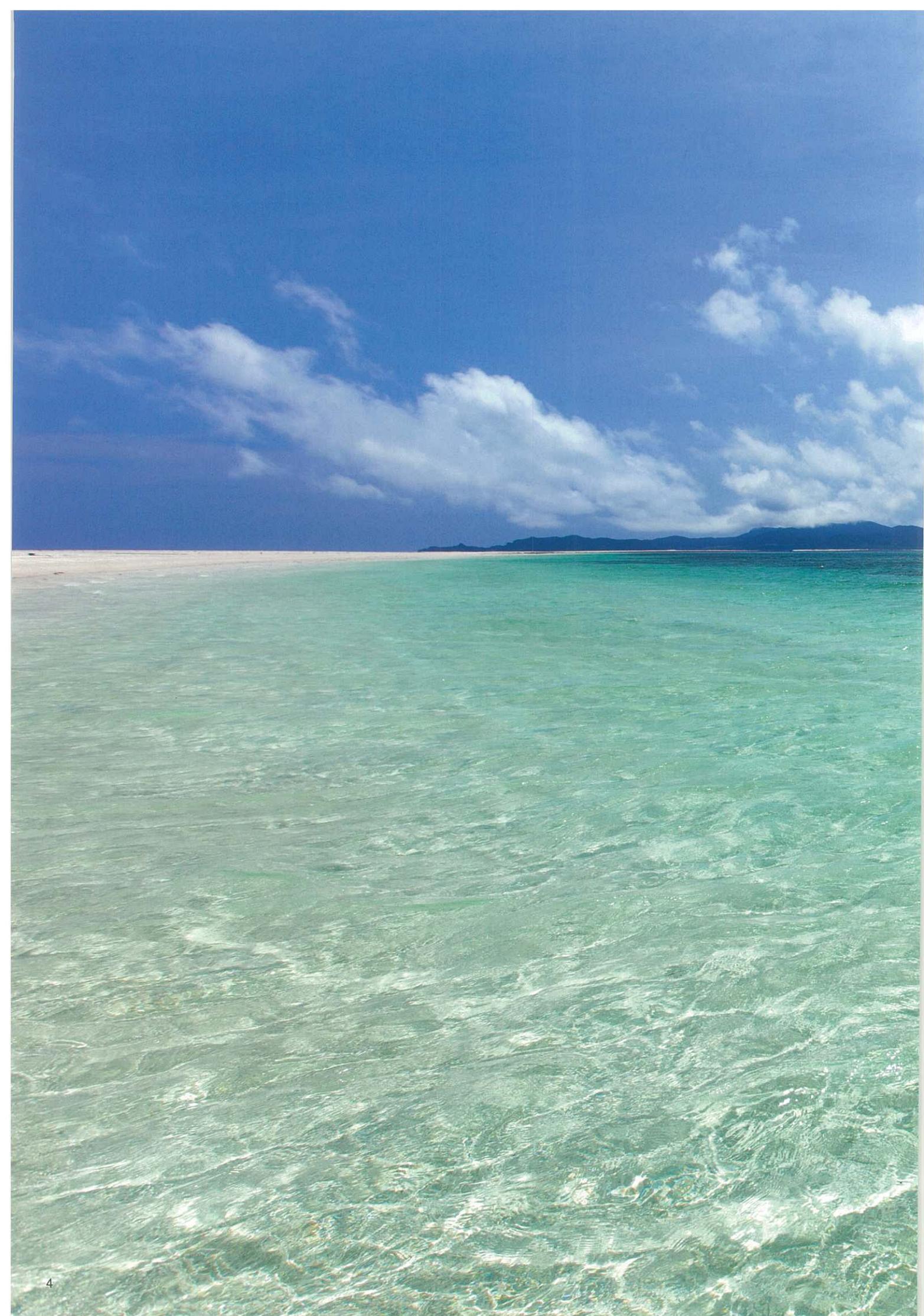
これから激動の10年を見据え、いかなる時代にあっても島人の安心安全な暮らしを守り、子どもたちの笑い声が響く島であり続けられるように…。

今、新たな挑戦が始まります。

2015年9月25日 久米島町長 大田 治雄

## 目次

■ 町長あいさつ	2
■ 計画策定にあたって	
1.計画の構成と期間	6
2.計画策定の意義	7
3.久米島町をとりまく社会動向及び久米島町の現状	
1)久米島町の位置	8
2)交通手段	9
3)歴史・文化	
4)土地利用状況	10
5)観光入込客数	11
6)人口減少の状況	12
7)経済動向	18
8)財政状況	24
4.計画策定方法	28
5.島民の抱えている主な課題	30
■ 基本構想	
1.第2次久米島町総合計画の将来像	34
2.基本構想図	35
3.構想の期間	36
4.目標	37
5.施策の柱	38
■ 第2次久米島町総合計画策定の経緯	40
■ 名簿(審議会・ワーキングチーム・事務局)	44





計画策定にあたって

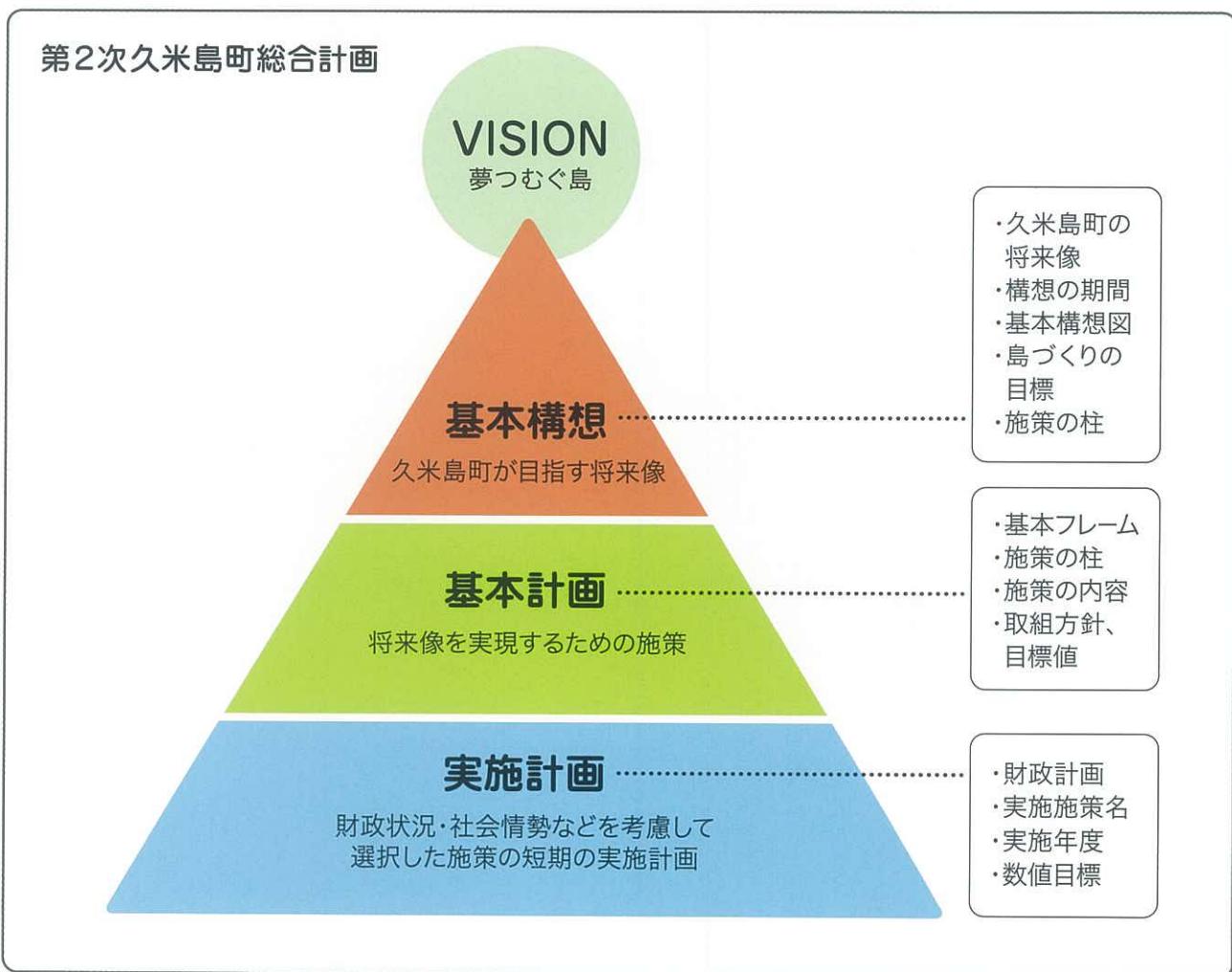
## 計画策定にあたって

### 1. 計画の構成と期間

第2次久米島町総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画によって構成されています。基本構想は、久米島が目指す将来像とそこに向かうアプローチを示しています。基本計画は、その将来像を実現するための施策(実現するための具体策)を示したものです。実施計画は、基本計画で示された施策の中から、財政状況や社会情勢を考慮して選択し、実施する短期計画であり、予算編成の指針にもなります。

基本構想の対象期間は2016年度(H28)～2025年度(H37)であり、基本計画は前期、後期に分けて5年分ずつの策定となります。また、実施計画は3年ごとに策定し、細やかな振り返り作業と修正をしつつ、より確実な計画実行を目指します。

縦糸横糸が紡がれることにより、強固で味わい深い織物が生まれる久米島紬のように、この計画も各分野が縦横に交わり連携することによって、豊かな久米島の未来図が紡ぎだされるような構成となっています。



## 2. 計画策定の意義

2002年(H14)4月の合併から、「久米島はひとつ」を目指して進めてきた第1次総合計画を経て、今、私たちは、改めて50年、100年先に続く未来の久米島づくりに向けて大きく舵を切る時にきています。

第1次総合計画でも課題として挙げられ、さまざまな取り組みがなされてきた人口減少問題ですが、依然として**減少傾向に歯止めがかかりません。**

どのような島づくりを目指すにしても、この問題に抜本的な解決を見ない限り、夢を結ぶ未来図は描けません。

人口をこれ以上減らさないようにするために、まず**「住民が安心して暮らし続けられる島」**であること、そして**「外から人をいざなうことができる島」**であること、つまり定住人口・交流人口の増大が大前提となります。その実現方法を探るためにには、これまで以上に多くの住民が総合計画を**「自分ごと」**として策定に関わり、計画完成後もその実現過程において主体的に関わることが必要となります。

町内の各分野で現在抱える課題を洗い出し、官民一体となって、それぞれの課題ごとに、**中止すること、改善すること、新たに始めること**を検討します。そして、課題解決に向けての施策を講じ、それぞれが「自分ができること」を見つけ、実現に向けて動きます。しかし、それらは互いに異なる分野でありながら、共に共通の、しかも喫緊の課題である「人口減少」に「ストップ」をかけるような動きにならなければいけません。

これから10年、島が一丸となり、さまざまな角度から本気で動くことができるかどうかが試されます。**そのための羅針盤**となるべく、この第2次総合計画は策定されました。

### 3.久米島町をとりまく社会動向及び久米島町の現状



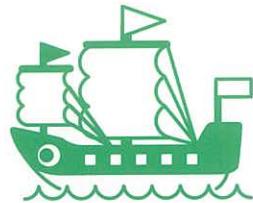
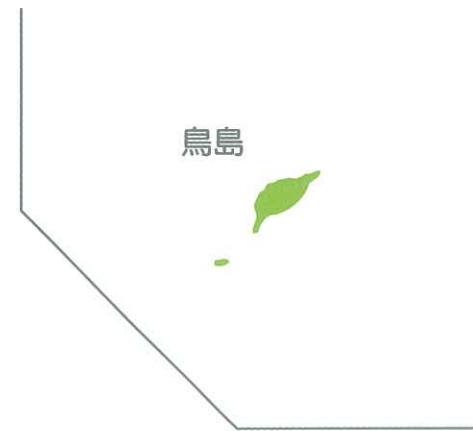
#### 1) 久米島町の位置

久米島は、沖縄本島那覇市の西方約100kmの東シナ海に位置し、久米島本島及び奥武島・オーハ島の有人離島、鳥島・硫黄鳥島などの無人島から構成されています。

東洋一美しいとも言われる「ハテの浜」や、ラムサール条約に登録された渓流、県指定天然記念物の亀甲型の「畳石」が広がる奥武島など、海岸域から山地まで広がるその自然の豊かさから、希少野生動植物の生息地域となっており、島のほぼ全域が県立自然公園に指定されています。

## 2) 交通手段

沖縄本島からの交通手段としては、那覇泊港からのフェリー(1日2便・所要時間3時間20分[渡名喜経由]/2時間50分[直行])と、那覇空港からの航空便(JTA1日1便、RAC6便[2015年9月時点]所要時間25分~30分)が運行されています。7月中旬~8月のハイシーズンには東京(羽田空港)からの直行便も1日1便、運行されています。



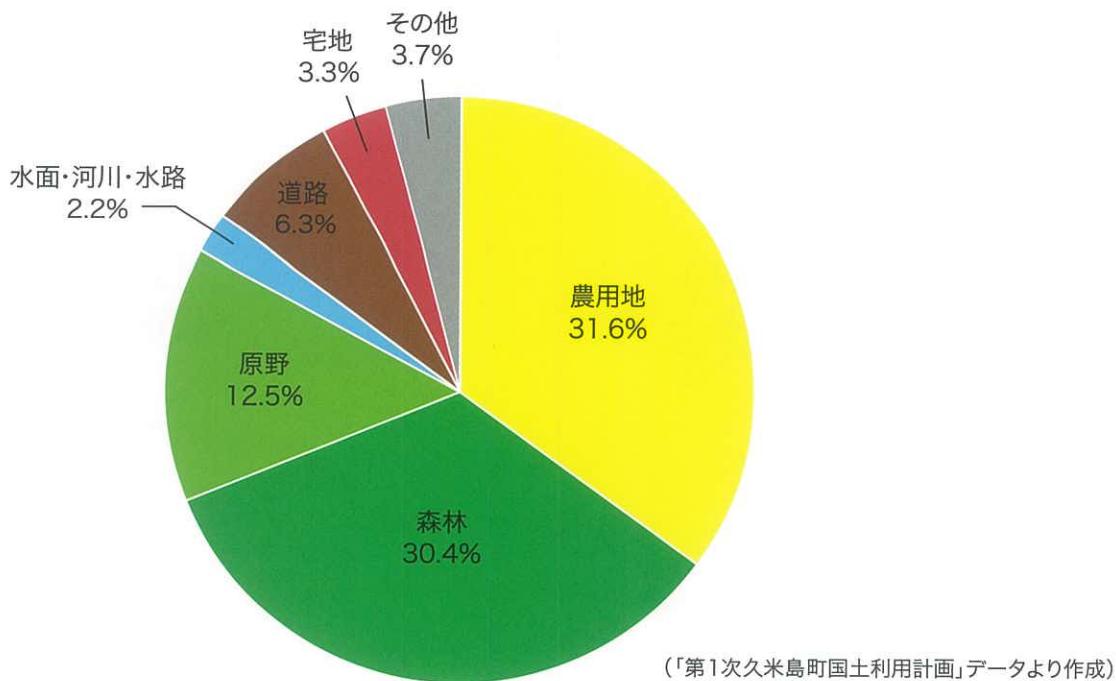
## 3) 歴史・文化

琉球王朝が、中国をはじめ、東南アジアや朝鮮、日本と盛んに貿易していた時代、久米島はその寄港地として栄えました。中国大陸と沖縄本島の間に位置する離島という特異な歴史風土に支えられながら多様な文化を先人から受け継いでおり、「久米島紬」(国指定重要無形文化財)や現存する沖縄県最古の民家「上江洲家」(国指定重要文化財)など国指定の文化財も多数存在しています。また古来、湧き水を利用した稻作が盛んであったことから米どころの意で「久米島」になったという説もあるほど、豊かな水に恵まれた島でもあります。



#### 4) 土地利用状況

久米島町の総面積は6,350haで、沖縄県内で8番目に大きい自治体となっています。2010年(H22)における町土の地目別面積割合では、農用地が約1/3を占め、森林・原野を合わせた面積は42.9%になります。農用地は主に耕作もしくは養畜のための採草畑として利用され、森林・原野は町民の生活を支える水源地域として、豊かな植生によって地下水の涵養に役立っています。



## 5) 観光入込客数

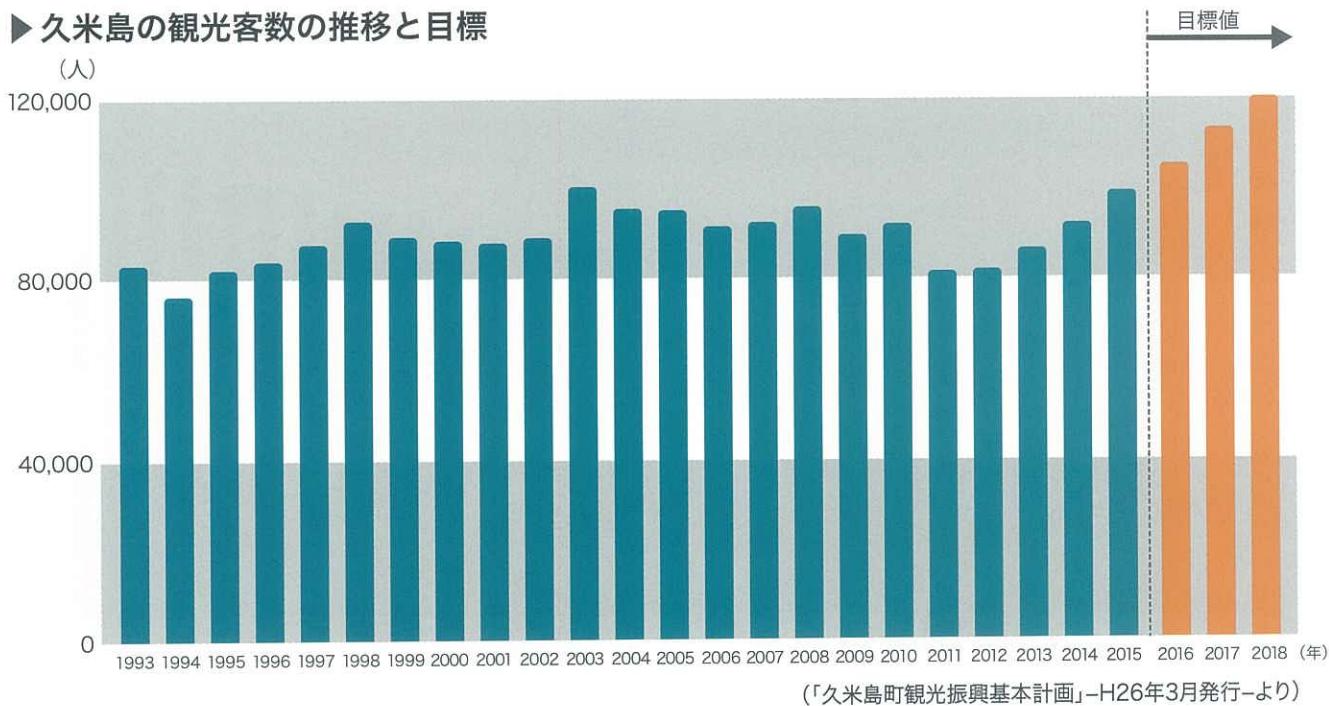
交流人口を増加させ地域の活力を生み出す観光。  
久米島町では2012年(H24)以降、増加傾向にあり、  
『観光振興基本計画』で設定された2019年(H31)までに  
12万人を目指し、さまざまな観光振興政策が進められている。

沖縄県全体では、2014年(H26)の観光入込客数が705万8,300人となり過去最高を記録しました。さらに、同年に那覇空港新国際線旅客ターミナルの供用など、観光振興に関わる施策が進められており、目標の1,000万人の達成に向けて着々と取り組みが進められています。一方、久米島の観光入込客数は、2003年(H15)に10万人台の大台を超えたが、それ以降は横ばいもしくは減少傾向となっていました。

しかし、近年はスポーツ合宿の誘致などの効果もあり、増加の兆しがみえます。2011年(H23)に8万1,212人にまで落ち込んだ後は毎年増加を続けており、2013年(H25)は8万6,298人、2014年(H26)には9万261人と、9万人を達成しました。

2014年(H26)3月発行の『久米島町 観光振興基本計画』では、2019年(H31)までに、観光入込客数12万人を実現することを目標としており、総合計画においても観光分野の取り組みについては観光振興基本計画を主軸とした施策展開を推進していきます。

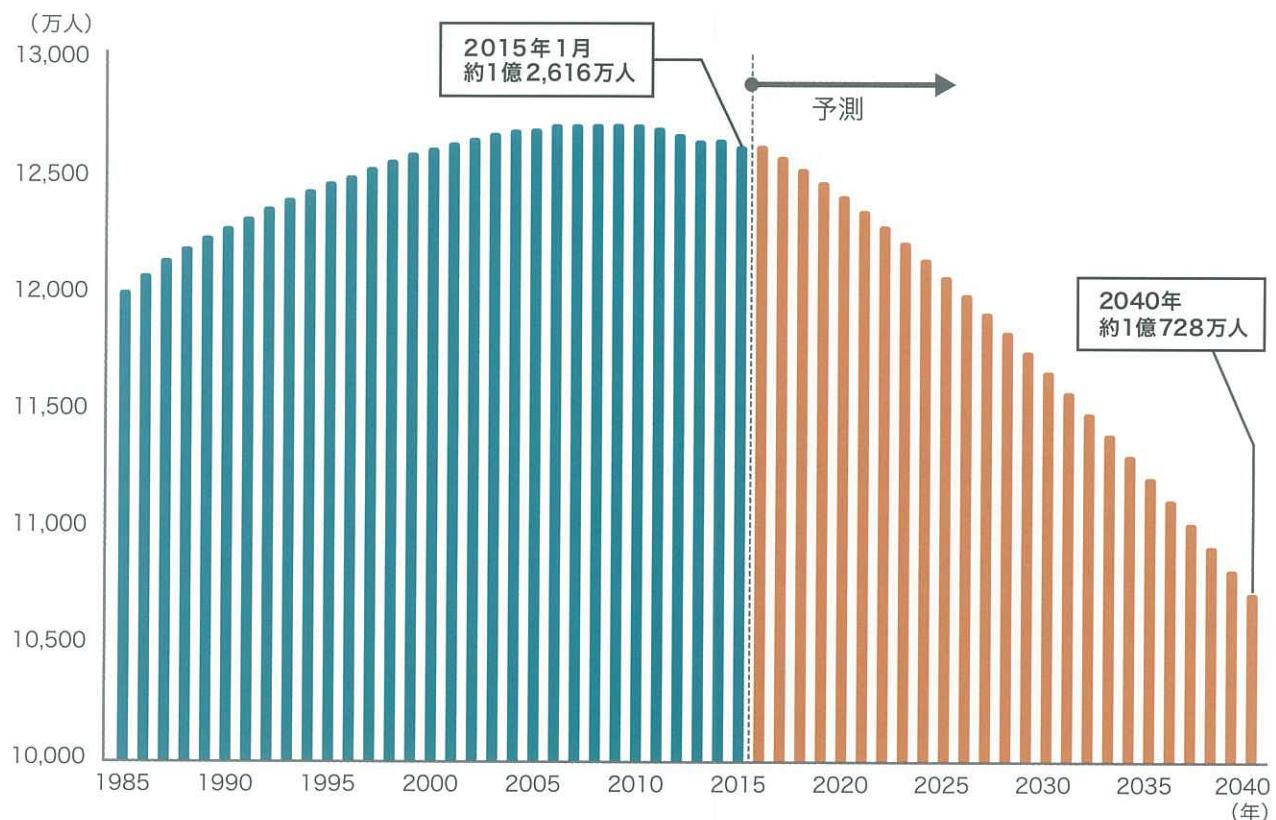
### ▶ 久米島の観光客数の推移と目標



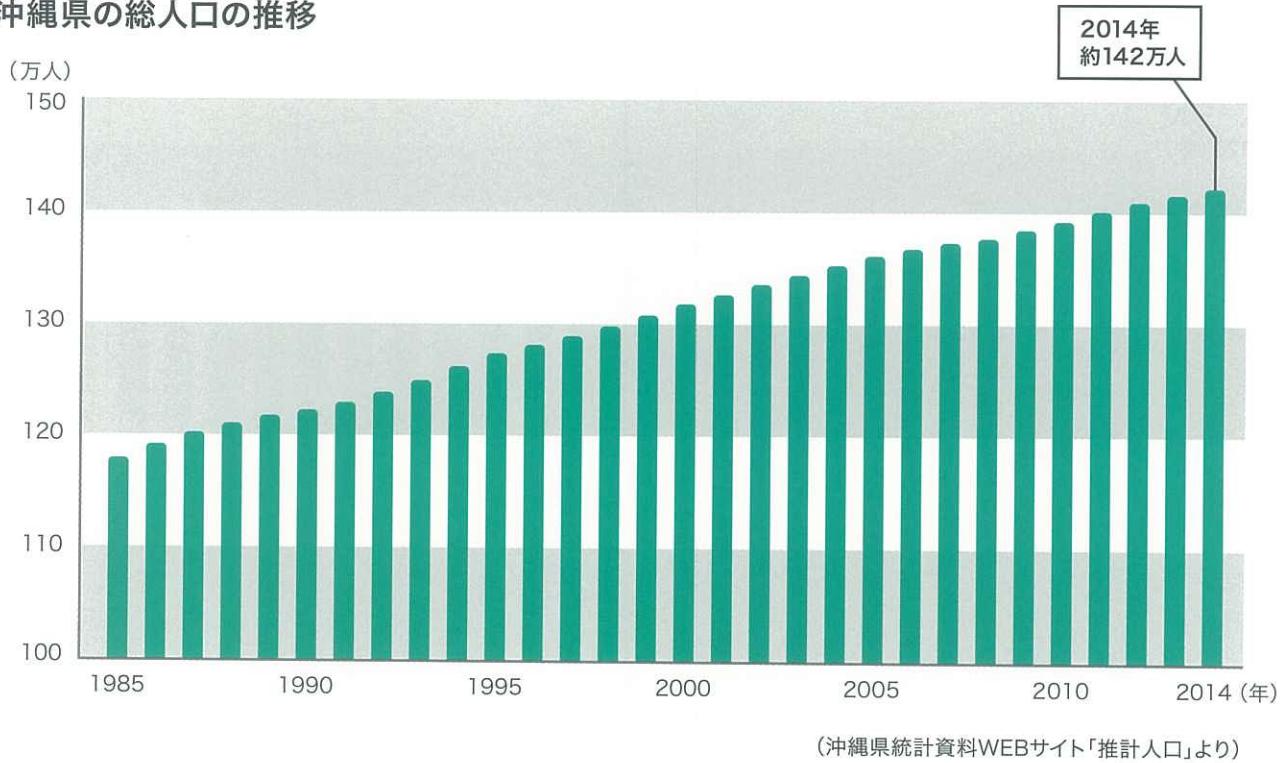
(「久米島町観光振興基本計画」-H26年3月発行-より)

## 6) 人口減少の状況

### ▶日本の総人口の推移と予測



### ▶沖縄県の総人口の推移



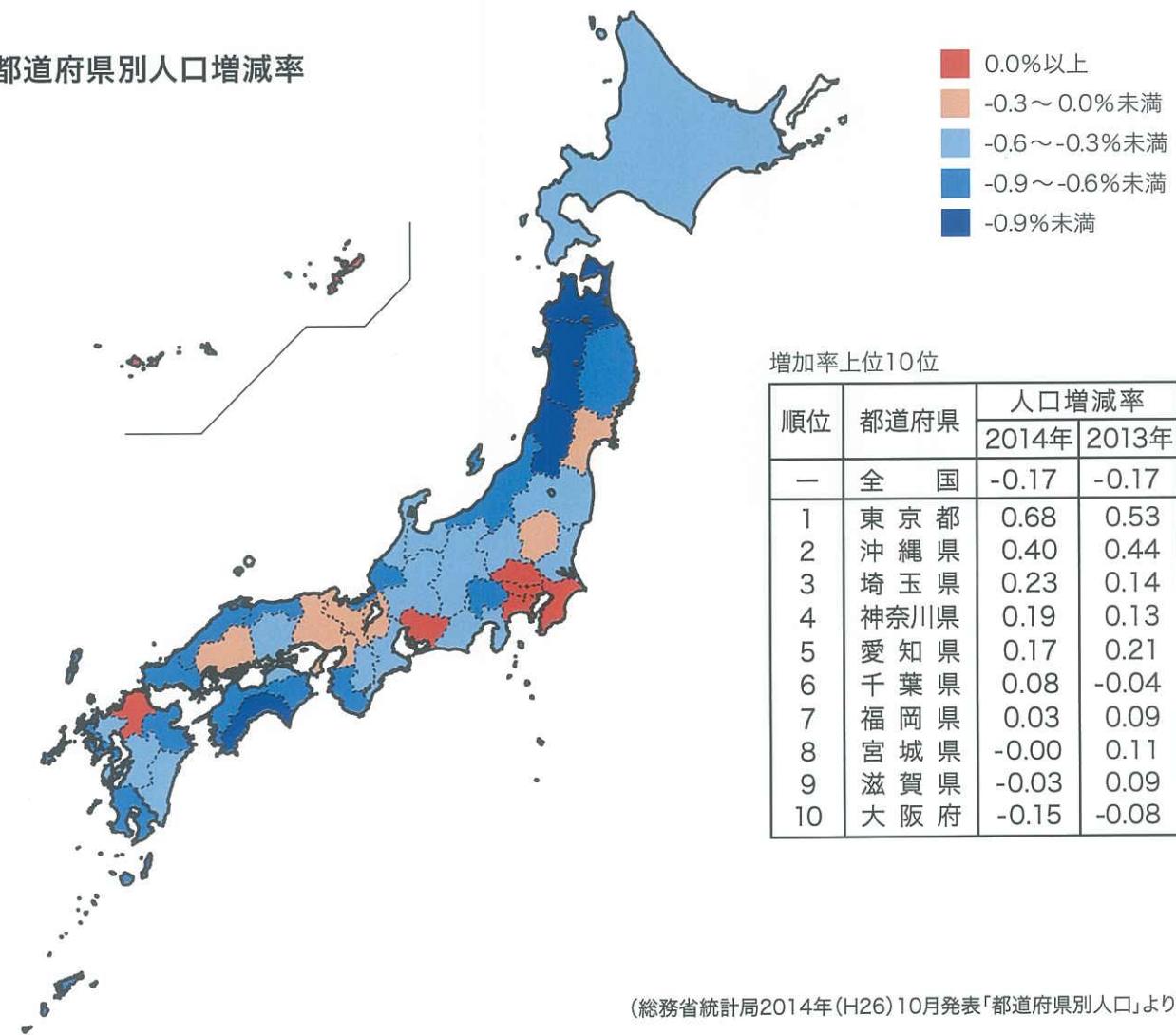
人口増加傾向にある沖縄県において、久米島町は減少傾向にあり、県内人口減少率第5位。高齢化率も県平均を上回っている。

総務省が2015年(H27)7月1日に発表した住民基本台帳に基づく2015年(H27)1月1日時点の人口動態調査によると、国内の日本人の人口は1億2,616万3,576人で、前年比で約27万人減。年間減少幅は調査を始めた1968年(S43)以降で最大。2040年(H52)には1億727万6,000人※まで減少する見込みです。町村の9割で人口が減る一方、東京圏への一極集中がさらに進み、少子化対策と地方創生に向けた取り組みが一層求められています。

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位仮定)より

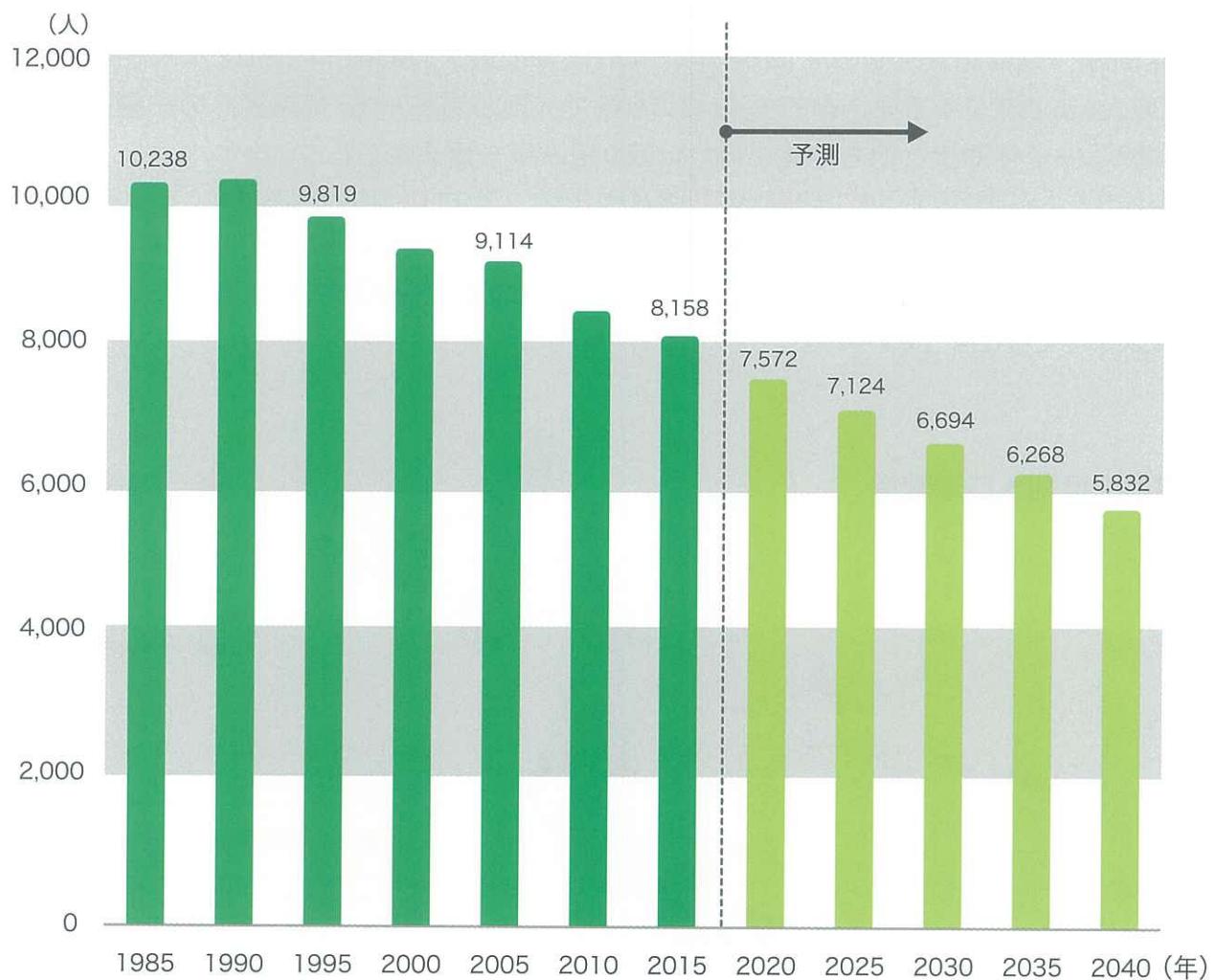
そんな中、各都道府県の前年度比の人口増減率を見ると、40都道府県がマイナスとなったのに対し、沖縄は増加率0.40%となっており、人口増となった7都府県のうちトップの東京都(0.68%増)に次いで2位となっています。

#### ▶都道府県別人口増減率



久米島町の人口は国勢調査によると、1990年(H2)までは1万人台を維持していましたが、1995年(H7)に1万人を割り、その後は1年間に100人近いペースで減少しています。

### ▶久米島の人口の推移と予測



(実数：総務省 1985年～2010年 国勢調査及び人口推計より / 予測：国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計より)

年齢構造の推移をみると、少子高齢化が進んでおり、2015年(H27)1月時点で65歳以上が占める割合は26.3%と県平均19.0%を大幅に上回っています。

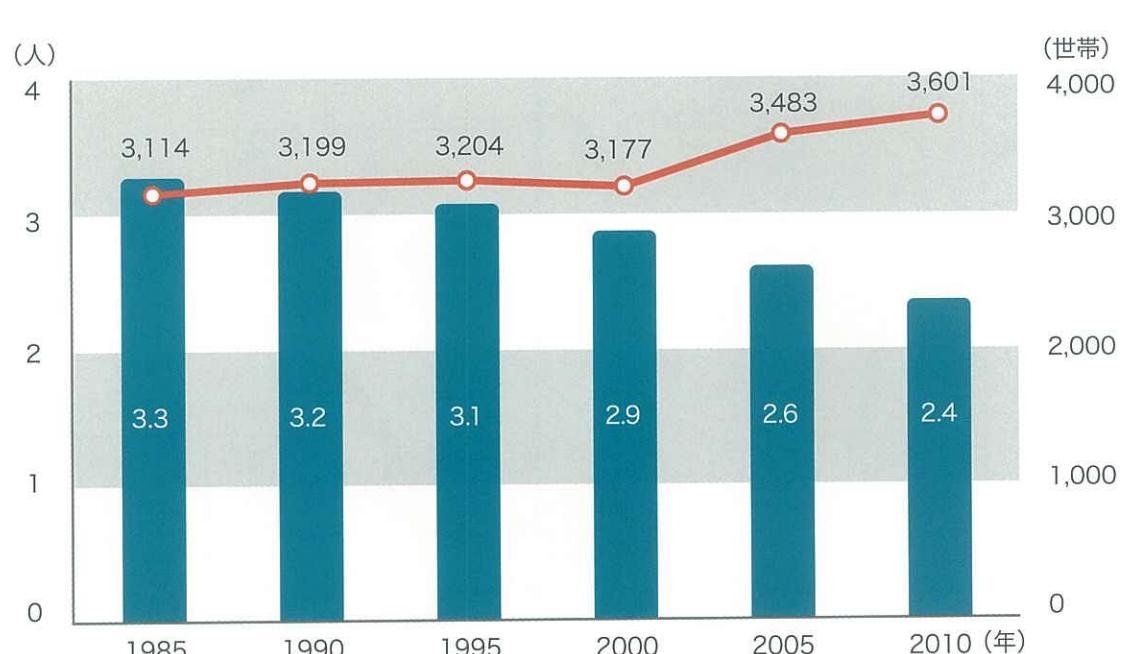
#### ▶久米島町の人口と年代別割合(高齢化比率)

	2005年	%	2010年	%	2015年	%
0~6歳	700人	7.5	610人	7.0	568人	6.9
7~15歳	984人	10.8	868人	10.0	738人	9.0
16~18歳	382人	4.1	292人	3.4	267人	3.3
19~39歳	2,003人	21.5	1,804人	20.8	1,615人	19.8
40~64歳	3,111人	33.4	2,954人	34.0	2,834人	34.7
65~74歳	850人	9.1	790人	9.0	854人	10.6
75歳以上	1,269人	13.6	1,368人	15.8	1,282人	15.7
総数	9,299人	100.0	8,686人	100.0	8,158人	100.0
(高齢化率)		22.7%		24.8%		26.3%

(久米島町住民基本台帳より作成)

さらに、年々核家族化が進んでおり、育児における家族・親族のサポート力の弱まりや、ひとり暮らしの高齢者の生活支援や介護など、さまざまな社会問題につながっています。

#### ▶世帯数および世帯人員の推移



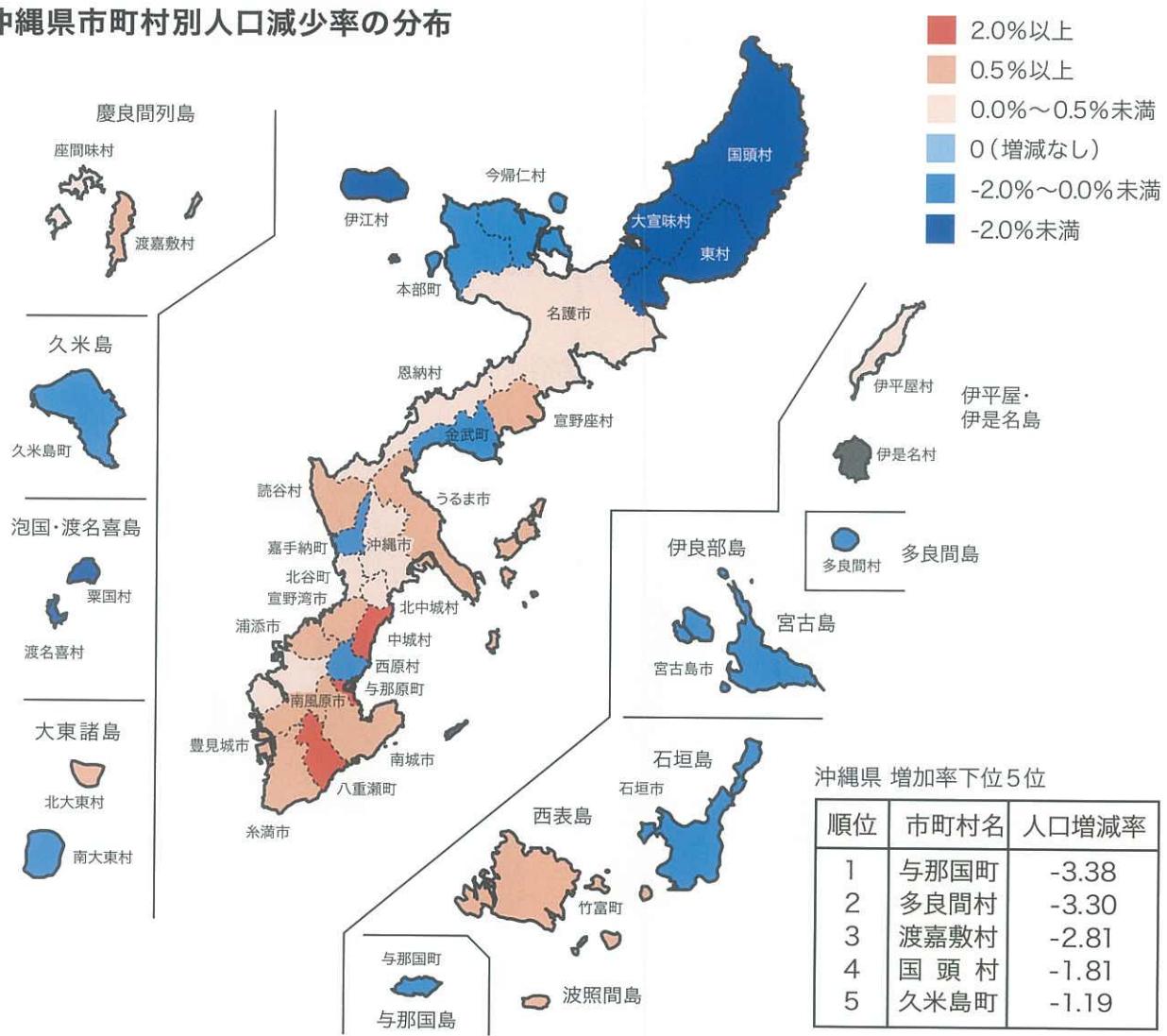
(資料:総務省 1995年~2010年 国勢調査報告書を基に作成)

このまま何も対策をせずにいると、2030年(H42)には島の人口は6,694人に。2040年(H52)には5,832人まで減り、65歳以上の人口割合は42.2%になると予測される。

日本創成会議・人口減少問題検討分科会が2014年(H26)5月に発表した、人口再生産力に着目した人口推計に基づく、いわゆる「**消滅可能性都市**」。

2040年(H52)の時点で20~39歳の女性人口が半減するといわれる全国896市町村の中に、久米島も入っています。

#### ▶ 沖縄県市町村別人口減少率の分布



(沖縄県統計資料WEBサイトより)

合計特殊出生率2.31で全国2位(※)を誇る久米島町だが、仕事や進学等、何らかの理由で「島を出ることを選択する」人が多いこと、またUターン、Iターンなどの転入者数がそれを補う数に達していないこと=「社会減」が、人口減少の大きな要因となっている。

※2014年2月厚生労働省発表「2008～2012年 市町村別合計特殊出生率」より

2014年(H26)4月から2015年(H27)年3月までの1年間の人口減少数は117人。その内訳は、出生数と死亡数を比べた「自然減」が43人。死亡数の中には近年、脳卒中、心筋梗塞など生活習慣病に起因する突然死が増えており「不健康による死」が新たな人口減少の一因となりつつあります。一方で、転入と転出を比べた「社会減」は74人で、自然減よりも大幅に多く、人口減少の大きな要因となっていることがわかります。

#### ▶ 転入と転出の比較



住民アンケートの結果を見ると、「ずっと住み続けたいが、将来的に他へ移ることも視野に入れている」と回答した人が全体の3割を超え、今後、仕事や進学、医療に対する不安のために「島外に出ることを選択する」可能性のある人が多くいることがわかります。

安心して暮らし続けられる島。Iターン、Uターン希望者に選ばれる島。  
『内を充たし、外からいざなう』ここに向けた早急な対策が必要です。

## 7) 経済動向

第1次産業・第2次産業の衰退、第3次産業の増加と、時代に翻弄される産業構造となっているが、フリーWi-FiやOTEC（海洋温度差発電）、海洋深層水複合利用『久米島モデル』の推進など、独自の政策もとられ、これまでにない形での自立への可能性も秘めている。

国勢調査による久米島町の就業者総数を見ると、2000年(H12)から2005年(H17)にかけて若干の増加が見られるものの、全体としてはゆるやかに減少しつつあります。産業別に見ると、2010年(H22)の時点で第1次産業が1,114人(27.7%)、第2次産業が623人(15.5%)、第3次産業が2,288人(56.8%)となっています。第1次・第2次産業は減少傾向にあり、第3次産業が増加傾向にあります。1985年(S60)まではものづくり中心だった産業構造が、1990年(H2)頃から逆転。第3次産業比率の増加と、産業の多様化が進んでいます。



## ►久米島町 産業別就業者数と内訳

(単位:人、%)

就業者 総数	第1次産業						第2次産業						第3次産業												
	合計		農林業		漁業		合計		鉱業		建築業		製造業		合計		卸・小売業		サービス業		公務		その他		
	1975	3,647	1,498	41.1	1,407	38.6	91	2.5	794	21.8	8	0.2	395	10.8	391	10.7	1,355	37.2	0	0.0	416	11.4	340	9.3	599
1980	4,343	1,612	37.1	1,479	34.1	133	3.1	977	22.5	3	0.1	523	12.0	451	10.4	1,754	40.4	2	0.0	585	13.5	378	8.7	789	18.2
1985	4,315	1,558	36.1	1,397	32.4	161	3.7	928	21.5	8	0.2	531	12.3	389	9.0	1,829	42.4	559	13.0	662	15.3	403	9.3	205	4.8
1990	4,435	1,501	33.8	1,368	30.8	133	3.0	823	18.6	13	0.3	506	11.4	304	6.9	2,111	47.6	642	14.5	850	19.2	378	8.5	241	5.4
1995	4,303	1,374	31.9	1,236	28.7	138	3.2	868	20.2	0	0.0	600	13.9	268	6.2	2,061	47.9	578	13.4	862	20.0	406	9.4	215	5.0
2000	4,041	1,082	26.8	951	23.5	131	3.2	804	19.9	6	0.1	548	13.6	250	6.2	2,155	53.3	593	14.7	911	22.5	419	10.4	232	5.7
2005	4,185	1,266	30.3	1,050	25.1	216	5.2	657	15.7	0	0.0	354	8.5	303	7.2	2,262	54.1	462	11.0	1,212	29.0	366	8.7	222	5.3
2010	4,025	1,114	27.7	935	23.2	179	4.4	623	15.5	1	0.0	320	8.0	302	7.5	2,288	56.8	396	9.8	1,275	31.7	339	8.4	278	6.9

(「国勢調査報告」を基に久米島町町民課が作成。久米島町ホームページより転載)

※各欄の右側にある数値は、就業者総数に対する各産業就業者の割合である。

(各産業ごとに小数点以下第2位を四捨五入した数値であり合計が100%にはならない部分もあります)

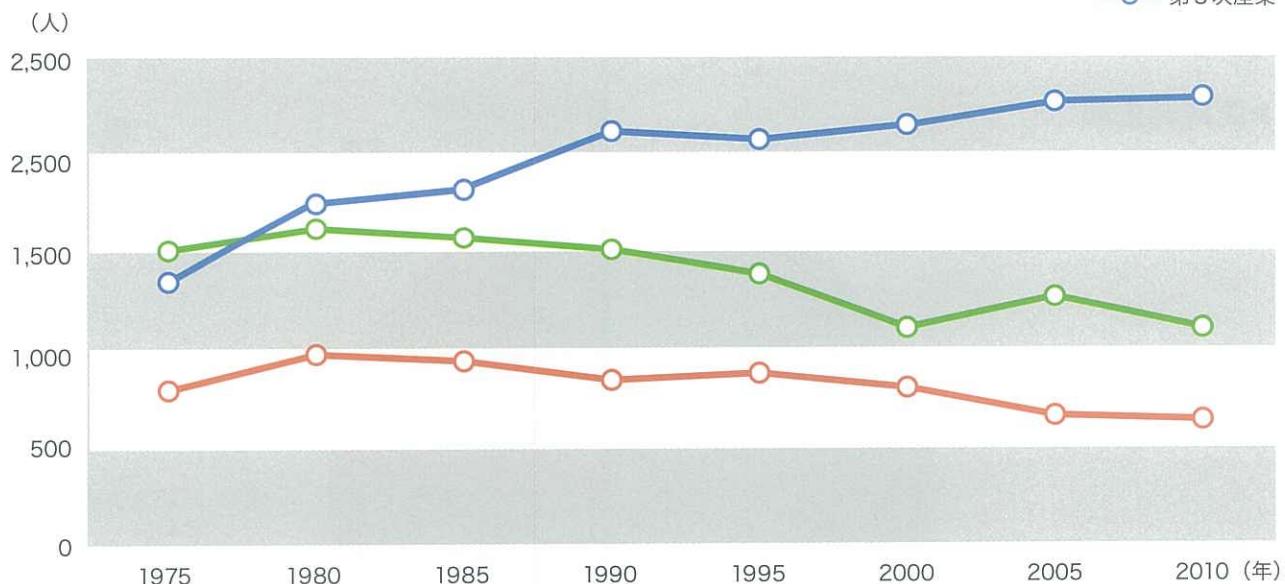
※両村合併(平成14年4月1日)以前のデータは、仲里村と具志川村を足したものである。

※『農林業』は、「農業」、「林業」を足したものである。

※『その他』は、「運輸・通信業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「金融・保険業」、「不動産業」、「分類不能の産業」を足したものである。

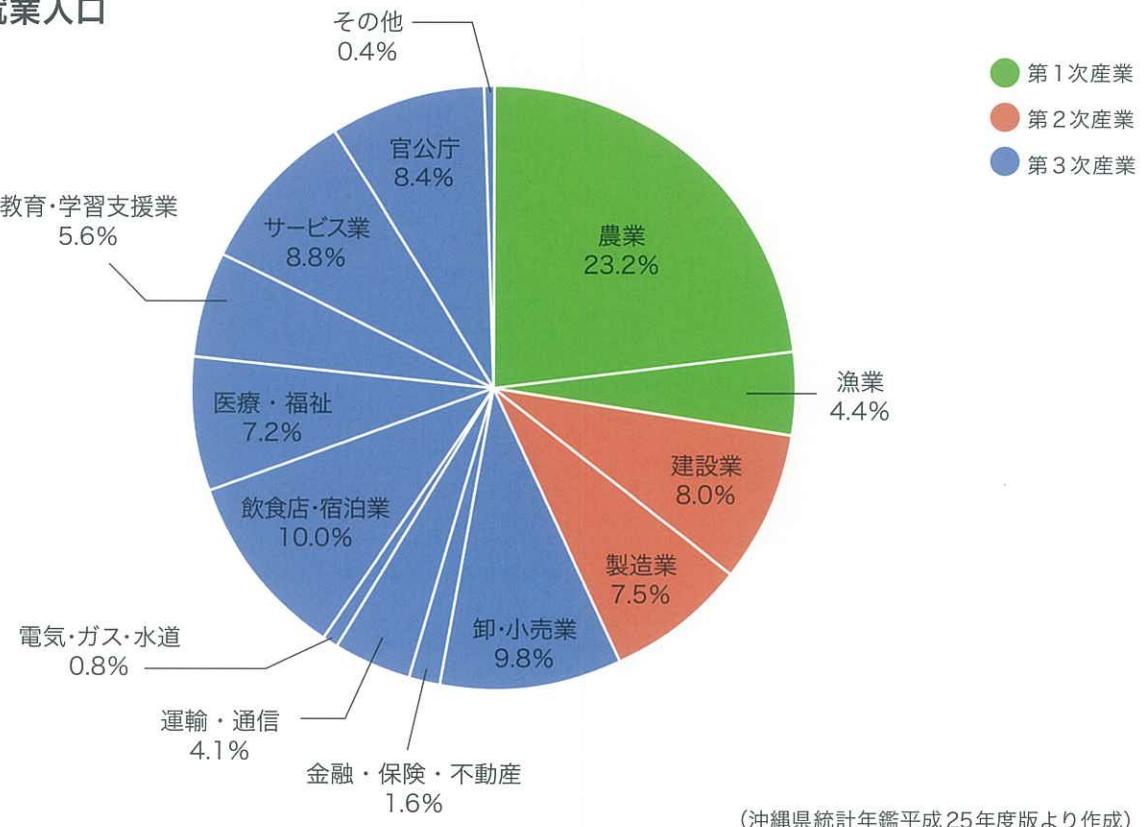
## ►産業別就業者数の推移

第1次産業  
第2次産業  
第3次産業

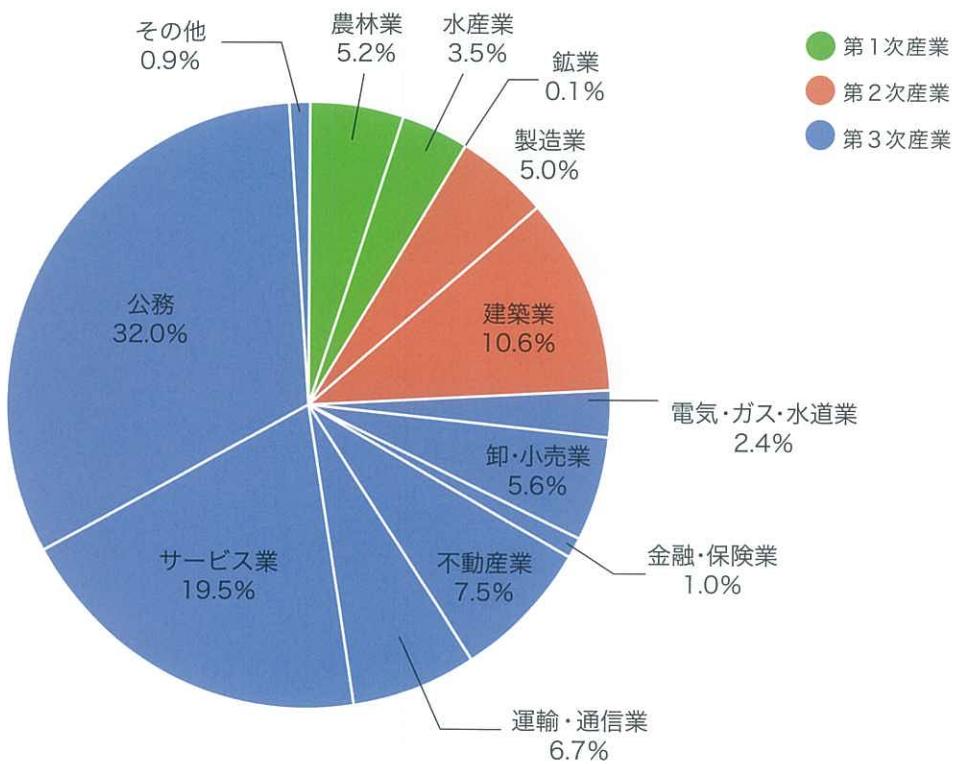


(「国勢調査報告」を基に久米島町町民課が作成。久米島町ホームページより転載)

## ►産業別就業人口



## ►産業純生産



(沖縄県統計年鑑平成25年度版より作成)

純生産の総額の推移を見ると、2003年(H15)以降は減少が続いている。また産業別の構成比を見ると第1次産業では漁業が横ばいもしくは増加の年もあるものの、全体としては第1次・第2次産業の減少と第3次産業の増加傾向が見て取れます。

### ▶産業別純生産と内訳

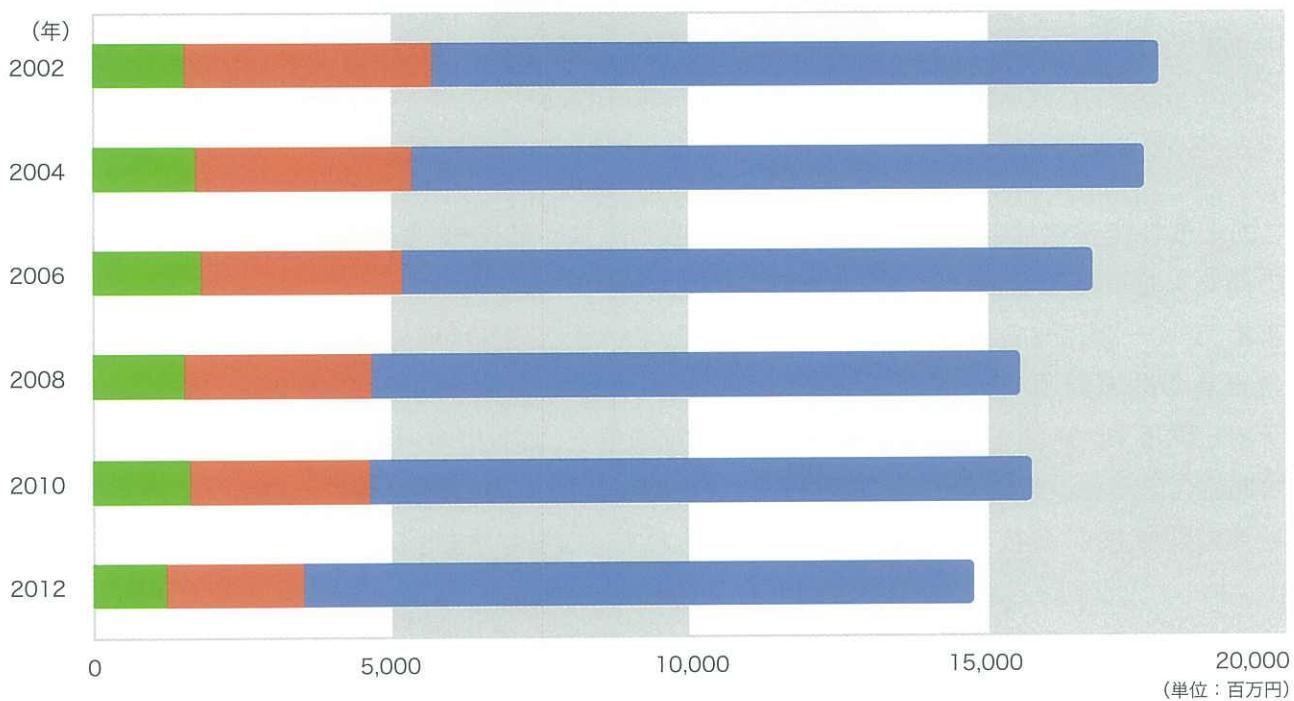
(単位：百万円)

項目	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
第1次産業	1,929	1,578	1,823	1,787	1,816	1,861	1,691	1,615	1,725	1,693	1,067	1,282
農林業	1,375	862	1,306	1,217	1,273	1,265	1,159	1,149	1,218	1,253	639	773
水産業	554	716	517	570	543	596	532	466	507	440	428	509
第2次産業	5,874	4,196	5,875	3,611	3,567	3,390	3,005	3,131	3,589	2,987	3,012	2,316
鉱業	68	61	59	52	40	36	36	27	18	12	12	12
製造業	1,598	1,338	2,149	1,845	1,524	1,361	1,409	1,459	1,640	1,146	560	737
建築業	4,208	2,797	3,667	1,715	2,003	1,993	1,560	1,645	1,931	1,829	2,440	1,567
第3次産業	11,592	12,099	12,128	12,204	11,660	11,510	11,112	10,750	10,728	11,023	10,991	11,135
電気・ガス・水道業	420	447	447	451	451	408	412	401	434	414	393	353
卸・小売業	1,032	999	957	914	846	793	793	798	762	815	817	832
金融・保険業	230	282	315	378	355	315	258	190	173	163	152	141
不動産業	925	923	941	952	956	978	973	959	1,002	1,072	1,083	1,107
運輸業・通信業	787	741	753	752	813	904	929	888	864	914	915	983
サービス業	2,888	3,110	3,300	3,414	3,018	2,863	2,839	2,680	2,596	2,658	2,734	2,873
公務	5,067	5,382	5,227	5,171	5,088	5,143	4,802	4,725	4,789	4,871	4,770	4,712
その他	243	215	188	172	133	106	106	109	108	116	127	134
合計	19,395	17,873	19,826	17,602	17,043	16,761	15,808	15,496	16,042	15,703	15,070	14,733

(沖縄県統計資料 WEB サイトより作成)

### ▶産業別純生産の推移

■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業



(上表「産業別純生産と内訳」より作成)

全国的に農業・漁業後継者育成や6次産業化へのさまざまな取り組みがなされている中、若者たちの第1次産業分野における新たな潮流が起きています。

新3K「かっこ良く」「稼げて」「感動がある」農業を目指して立ち上がった若手就農者たちが、「安心安全な食」をテーマに生産を行い、インターネットやSNS(ソーシャルメディア)で顧客や他業界と繋がり、産業分野を超えた新たな手法で生産から販売までを手がける。さらに、農業の営みそのものを「グリーン・ツーリズム」という形で観光と結び、新たな展開をするなどの動きが活発になっています。

近年、久米島でも島の自然の恵みを活かした鶏・牛のブランド化や新たな農作物づくりに取り組む若者の姿が見られるようになっています。このような新たな動きを大切に育み広げることも、今後の島の産業を強化するためには欠かせない要素であると共に、若者のUターンやIターンを促すものと考えられます。



(2015/3/29 しんぶん赤旗)



(2009/2月 雑誌『BRUTUS』)



(2009/3/25 産経新聞)

このような状況の中、近年は海洋深層水関連の農業や養殖業、製造業の成長が著しく、久米島の新たな基幹産業の一つとなりつつあります。

また、フリーWi-Fiの実現、世界で唯一稼働しているOTEC(海洋温度差発電)の先端技術力、久米島の地域資源である「海洋深層水」を活用した産業振興と雇用創出を図る、自立型コミュニティモデル『久米島モデル』の推進など、情報通信と、エネルギーの最先端技術を具現化しつつある久米島は、これまでの産業別・分野別のカテゴリーではおさまることのないイノベーションを生む可能性に満ちている島であることも忘れてはならなりません。

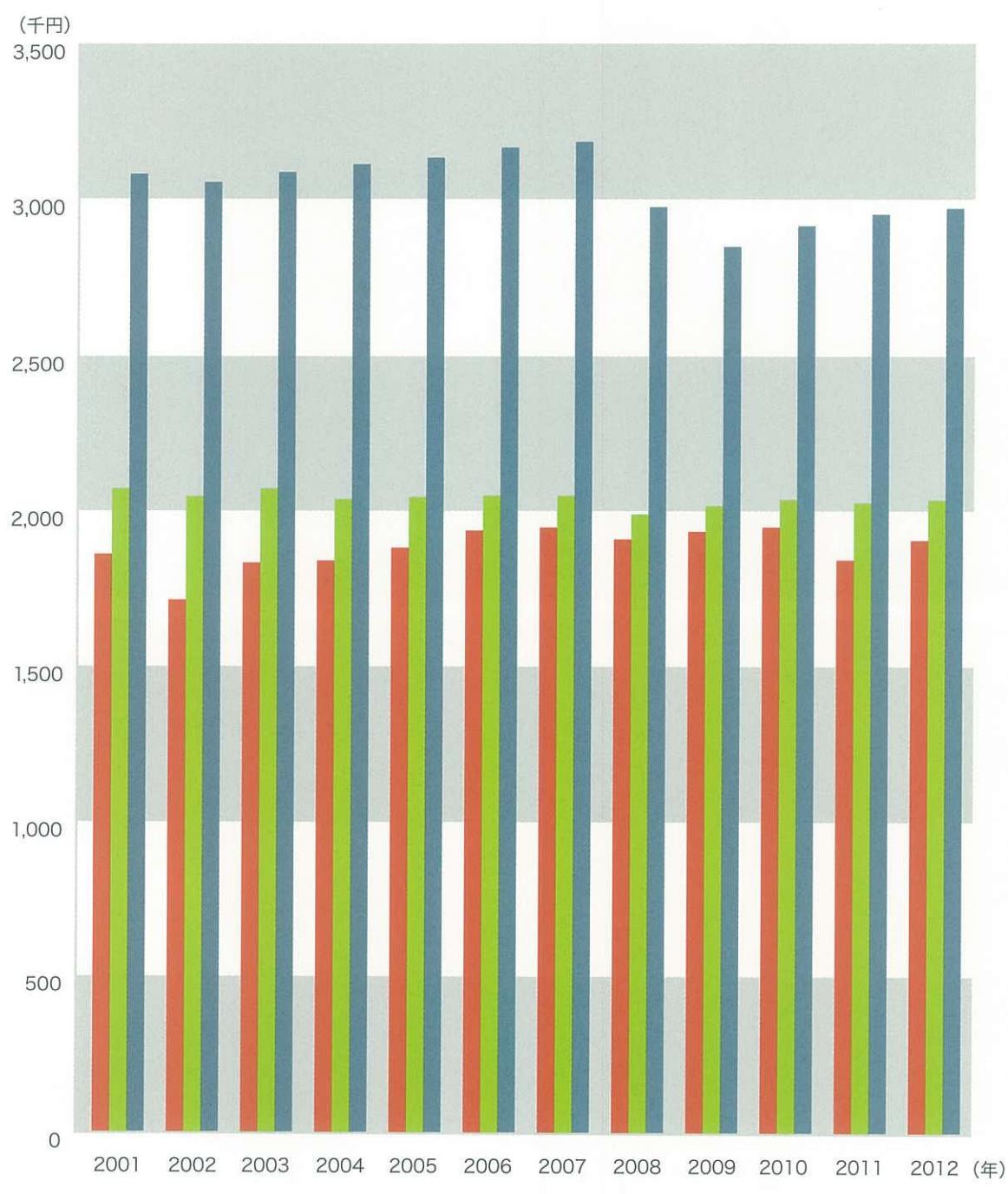
海洋深層水複合利用では大規模な産業振興(経済効果80億円規模、雇用1,500人規模※)の可能性が見込まれています。(※久米島海洋深層水複合利用基本調査報告書より)



## 8)財政状況

### ①町民所得の状況

#### ▶1人あたり平均所得の推移



■ 久米島町  
■ 沖縄県  
■ 全国

## 町民所得は依然として、沖縄県平均を下回り続けている。

第1次久米島町総合計画でも課題としてあがり、さまざまな施策が実施されてきた町民所得の向上ですが、未だ状況は改善されていません。

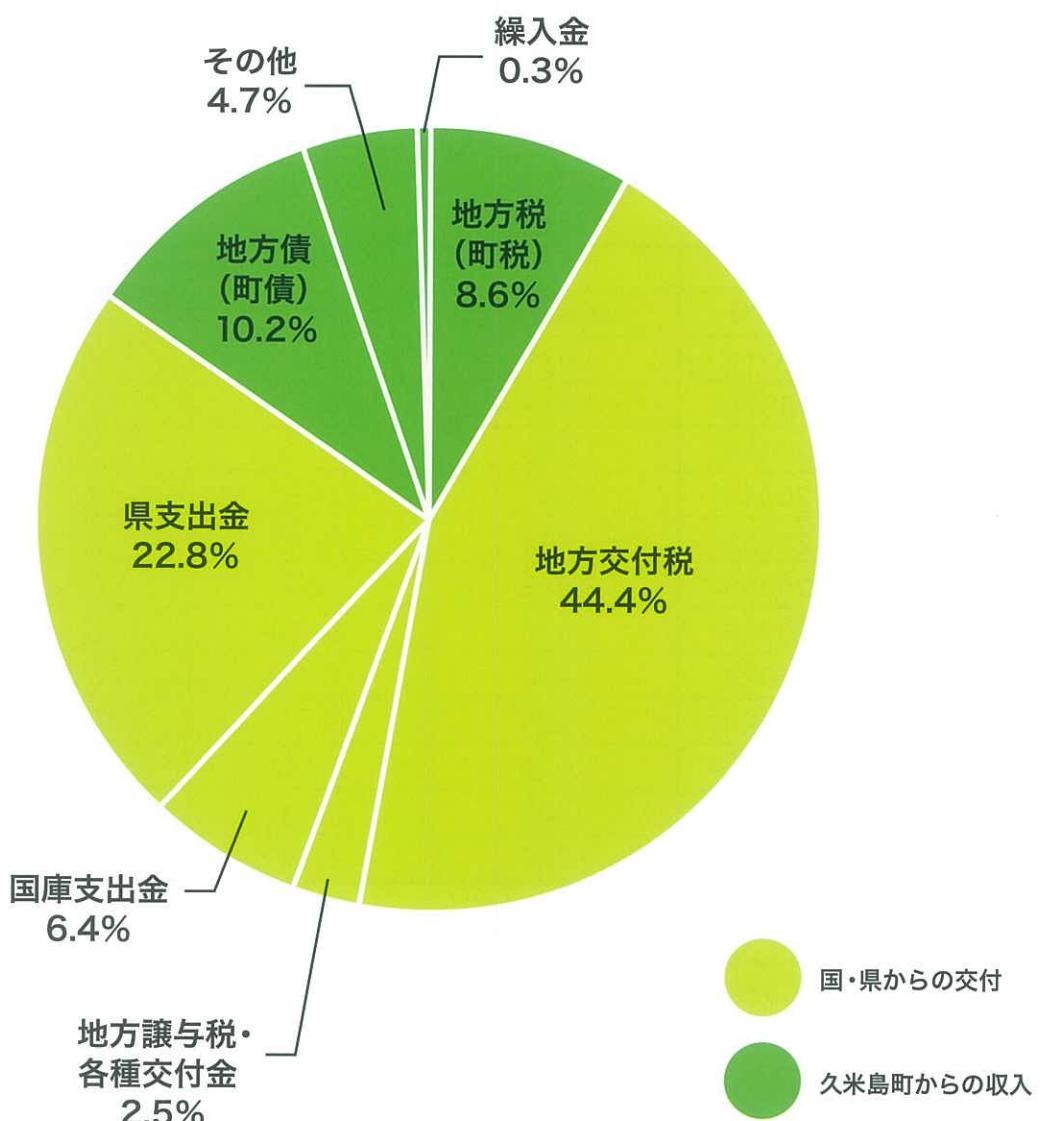
沖縄県の1人当たり県民所得は、毎年全国でも低い水準となっていますが、久米島町の1人当たり町民所得は、2001年(H13)からの推移を見ても常に県平均を下回る水準で推移しています。

年 度	1人あたり所得（千円）		
	久米島町平均	沖縄県平均	全国平均
2001年	1,861	2,072	3,080
2002年	1,713	2,047	3,054
2003年	1,833	2,072	3,086
2004年	1,840	2,038	3,111
2005年	1,882	2,045	3,132
2006年	1,938	2,050	3,164
2007年	1,948	2,049	3,183
2008年	1,910	1,990	2,976
2009年	1,935	2,017	2,853
2010年	1,949	2,037	2,918
2011年	1,842	2,026	2,954
2012年	1,906	2,035	2,972

(久米島町、沖縄県…『平成24年度沖縄県市町村民所得』H27年7月沖縄県企画部統計課公表資料より作成  
全国平均…内閣府ホームページ「県民経済計算（平成13年度-平成24年度）」より作成)

## ②久米島町の財政状況

►2015(H27)年度 一般会計予算 歳入割合  
(総額:72億7,939万9千円)



(久米島町企画財政課作成「平成27年度予算概要版」より)

町の収入のうち、町民及び町が生み出しているお金は約13%。  
その他は、国や県など外から交付されるお金に依存。  
沖縄県内でも最も高い依存水準。

久米島町の2015(H27)年度の予算・歳入の部を見てみると、収入総額に占める地方交付税の割合が44.4%、また国や県から使途を指定されて交付される国庫・県支出金の割合が29.2%となっています。

一方、町税や財産収入、使用料・手数料などの諸収入からなる自主財源は13.3%。これは、町の財源が国や県から配分・支出される財源に大きく依存していることを意味し、その依存率は沖縄県内でも最も高い水準にあります。

久米島町が、『内を充たし、外からいざなう』町になるためには、経済を活性化し、自主財源を増やし、自立した島の経営ができるようになることが重要であることは言うまでもありません。

先に述べた海洋深層水複合利用『久米島モデル』など大規模な産業振興政策と同時に第1次産業の振興、地域農業や自然資源を活用した手作りのカフェや雑貨など「小さな経済」の創出、交流人口増加に向けての施策や、島外にいる久米島出身者や久米島ファンに向けての「ふるさと納税」増加策など、さまざまな可能性をひとつずつ実現していくことが大切です。

それと同時に、お金の軸だけにとらわれない「久米島ならではの暮らしの在り方」「自立した生活を送ることのできる経済圏づくり」を再考し、未来の子どもたちへ繋げていくことも大切なことであると考えます。

## 4.計画策定方法

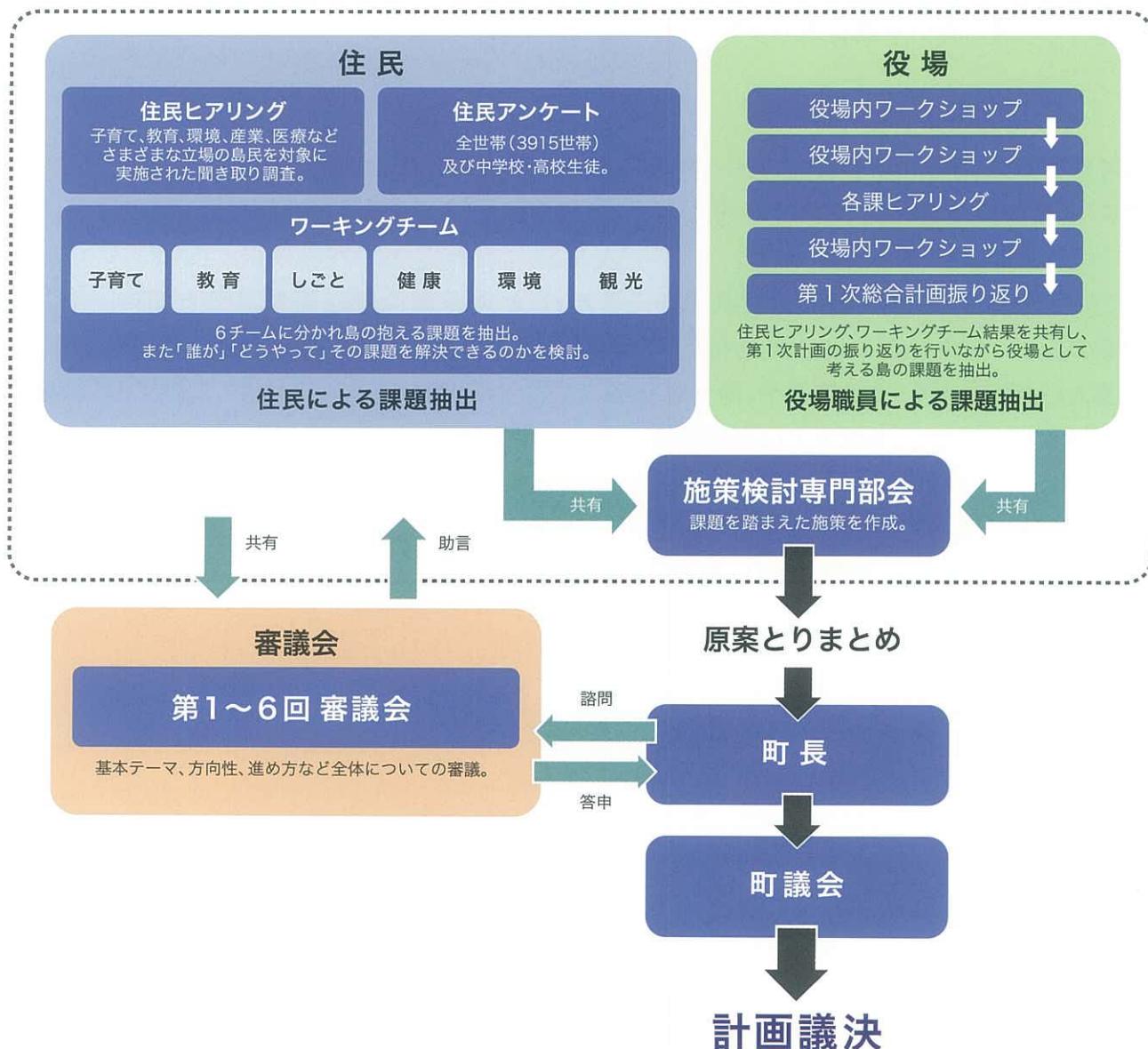
第2次総合計画では、住民の参画と協働が策定作業の基盤であると考え、教育現場、医療現場、町議員、各種団体のほか、組織には属さない子育て中のお母さんたち等も含めて、さまざまな立場の島民へのヒアリングからスタートしました。

全世帯(3,915世帯)へのアンケート調査も実施。また、住民によるワーキングチームも結成され、課題の抽出にあたりました。同時に、それらを解決するために「自分たち住民は何ができるのか」「行政には何ができるのか」「一緒にできることは何か」などを検討しました。

行政も、その声に応えるべく、現行の施策と課題を照らし合わせながら、終了するもの、改善するもの、新たに始めるものを精査しました。

こうしたプロセスは、要所要所で審議会において共有され、方向性や内容など、第2次総合計画全体についての審議が行なわれました。

### ▶策定手順



この総合計画を実現、実行していくためには、分野を超えて島民が縦横に繋がり、情報共有しながら行動するネットワークづくりが不可欠であるということが、本計画策定プロセスの中で共有されました。

### ▶久米島町を構成するプレイヤーマップ



## 5.島民の抱えている主な課題

「人口減少」に歯止めをかけ、未来への夢を結べる総合計画策定においては、まず現在、島民が抱えている課題を抽出することが不可欠です。

ヒアリングやアンケート、ワーキングチームを通じて明らかになったさまざまに異なる課題を整理するにあたり、「人間が生まれてから死ぬまで、どの世代においても安心安全な暮らしができる島になること」を軸に、ライフステージを7つの段階に分けて、代表的なものを以下のように整理しました。

### 1.「生まれる」世代の課題

- ・島で出産ができない
- ・産前産後のサポート体制が整っていない

### 2.「育つ」世代の課題

- ・子どもの遊び場がない
- ・未就学児をめぐるサポート体制が整っていない
- ・糖尿病など子どもの生活習慣病が深刻化している

### 3.「学ぶ」世代の課題

- ・「確かな学力」を育むための学習支援が不十分なため、基礎学力が低く意欲を失っている
- ・発達障がいの子どもたちの支援員が不足し社会的自立のための支援が充分に行なわれていない
- ・高校卒業後の進路と地場産業とのつながりがない

### 4.「働く」世代の課題

- ・子育てと仕事を両立できる職場環境が少ない
- ・生きがいを感じる仕事が少ない
- ・求人求職情報など仕事関連情報が集約されていない

### 5.「暮らす」すべての世代の課題

- ・町民の健康状態悪化が深刻(40歳以上の8割が糖尿病及びその予備軍、アルコール、喫煙による健康被害の増大など)
- ・ゴミのポイ捨てや不法投棄が多い
- ・公共施設に、乳児用・介護用のオムツ替えシートやベビーカー、車いす用スロープがない

### 6.「老いる」世代の課題

- ・介護サポート体制が不十分なため、「島を出る選択」をせざるを得ない高齢者が増えている
- ・元気な高齢者の活躍の場が少ない

### 7.「次世代」の課題

- ・未来に引き継ぐべき自然が破壊されつつある(赤土の流出、海の汚染、久米島ホタルの減少など)
- ・外部に依存しなくても暮らしていく安心安全の確保(食糧・エネルギーの自立等)ができていない

これら1～7の課題が、島に暮らし島を守る人々「島人(しまんちゅ)」の充実に関するものだとすれば、加えて、外の世界からの情報や考え方を運んでくる、そして島の情報を外に届けてくれる人々「風人(かじんちゅ)」の視点の必要性も、新たな課題として見えてきます。  
そこで8つめの課題として次の課題が挙げられます。

## 8. 「島に人を惹きつける」ための課題

- ・情報発信力が弱い
- ・島らしい景観や文化的な魅力が充分に整備されていない
- ・移住希望者に対応する窓口がない

これらの課題はもれなく、町民、行政、専門家が共に解決していかなければならないものばかりですが、同時に未来図を実現していくためには、これまでの分野や立場を超えた新たな連携を創り出し、これまでになかった島づくりの視点からの取り組みに挑戦することも必要です。







# 基本構想

## 基本構想

### 1. 第2次久米島町総合計画の将来像

#### 『夢つむぐ島』

##### — 島人みんなで織り上げる未来 —

久米島が先人たちから受け継いできた強さとは何でしょう。

古来先人たちが守り抜いてきた海と土と豊富な水。

農業・漁業での自給自足を礎とする独立国家、それがかつての久米島でした。

周辺の強大な国家と対等に渡り合い、交易で繁栄し、多様な文化を受け入れ育む。

教育と技を重んじて「ひとづくり」「ものづくり」を推し進め

豊かな暮らしを営んでいた久米島。

その基盤となる豊かな自然と共に生きる智慧は、

今も、久米島の遺伝子としてこの島に残っています。

激変する社会情勢の中で、久米島の遺伝子に深く根付いた「久米島らしい未来」を描く。

食糧の自立、経済の自立、エネルギーの自立、文化・教育の自立。

島人同士がつながり、さらに、島外の智慧や力とつながる。

抜本的な解決が必要な「人口減少に歯止めをかける」という課題と向き合いながら

さまざまな住民ニーズを抽出し、その解決策を考え、島人の幸福を築くには

「内を充たし、外からいざなう」ための取り組みが必要です。

『すべての人が生き活きと暮らせる島』になること。

『外から人を惹きつける島』になること。

数々の工程を経て丁寧に織り上げられるからこそ美しい「久米島紬」のように、

島人一人一人が強い意志と絆でつながり合い、縦糸と横糸のように夢と営みを交差させ

「つむぐ」ことで、久米島の未来を織り上げる。

『夢つむぐ島』 — 島人みんなで織り上げる未来 — が今、始まります。

## 2. 基本構想図

将来像

島づくりの目標

施策の柱

夢つむぐ島　一島人みんなで織り上げる未来→

人を惹きつける島

すべての世代が生き生きと暮らせる島

<b>生まれる</b>	安心して「出産」できる島の実現	出産できる島の実現 出産サポートの充実
<b>育つ</b>	安心して「子育て」できる島の実現	子育て支援体制の充実 子どもの遊び場の充実 発達障がい児の支援充実 子ども健康プロジェクトの推進
<b>学ぶ</b>	幼児・小中高学校教育の充実	幼児教育の充実 小中学校教育の充実 高校教育の充実
	生涯教育の充実	文化・社会教育環境の充実 生涯学習体制の充実
<b>働く</b>	連携する産業振興	連携する産業振興体制づくり くらしの立つ農業地域づくり 多面的な漁業の振興 製造業の振興 商業・サービス業の振興 働きやすい職場環境の整備
	働く質の向上	交通の便利な島づくり 安全な水の安定供給 ゴミのない島づくり 環境を守る下水道、し尿処理 安心して暮らせる島づくり 災害に強い島づくり 快適な住環境づくり 島民の健康づくり推進 スポーツ・レクリエーションの振興 福祉の充実 多様なニーズに応えられる町づくり
<b>暮らす</b>	安心・快適な生活環境づくり	高齢者の生きがいある暮らしづくり 高齢者の健康増進 高齢者が安心して暮らせる島づくり 新しいビジネスの創出 未来を見据えた人材育成 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用 食糧自給率の向上 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上 島の豊かな自然資源の保護・活用
<b>老いる</b>	島民の健康づくり推進	島の豊かな自然資源の保護・活用 高齢者福祉の充実 高齢者の生きがいある暮らしづくり 高齢者の健康増進 高齢者が安心して暮らせる島づくり 新しいビジネスの創出 未来を見据えた人材育成 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用 食糧自給率の向上 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上 島の豊かな自然資源の保護・活用
<b>次世代ののために</b>	共に暮らせる島づくり	島の豊かな自然資源の保護・活用 高齢者福祉の充実 高齢者の生きがいある暮らしづくり 高齢者の健康増進 高齢者が安心して暮らせる島づくり 新しいビジネスの創出 未来を見据えた人材育成 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用 食糧自給率の向上 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上 島の豊かな自然資源の保護・活用
	次世代のための島づくり	島の豊かな自然資源の保護・活用 高齢者福祉の充実 高齢者の生きがいある暮らしづくり 高齢者の健康増進 高齢者が安心して暮らせる島づくり 新しいビジネスの創出 未来を見据えた人材育成 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用 食糧自給率の向上 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上 島の豊かな自然資源の保護・活用
	総合計画実現に向けて	島の豊かな自然資源の保護・活用 高齢者福祉の充実 高齢者の生きがいある暮らしづくり 高齢者の健康増進 高齢者が安心して暮らせる島づくり 新しいビジネスの創出 未来を見据えた人材育成 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用 食糧自給率の向上 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上 島の豊かな自然資源の保護・活用

島を訪れる、島に帰る人たちへ

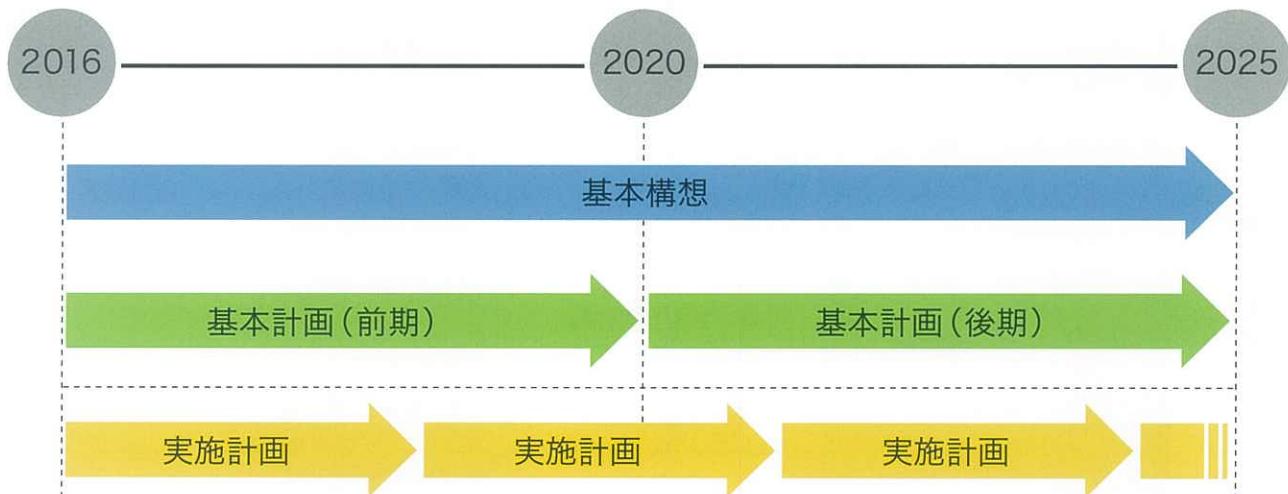
久米島らしさの醸成  
情報発信力の強化  
交流人口・移住定住人口の増大

久米島らしいライフスタイル・ブランドの確立  
情報発信力の強化  
交流文化の推進  
観光の振興  
移住定住促進体制の充実

### 3. 構想の期間

基本構想については、2016年度(H28年度)を初年度として、2025年度(H37年度)を目標年次とする10年計画とします。基本計画については、「前期」「後期」に分け、5年ごとに計画を見直すこととします。

また実施計画については、3年ごとに計画を見直すこととします。



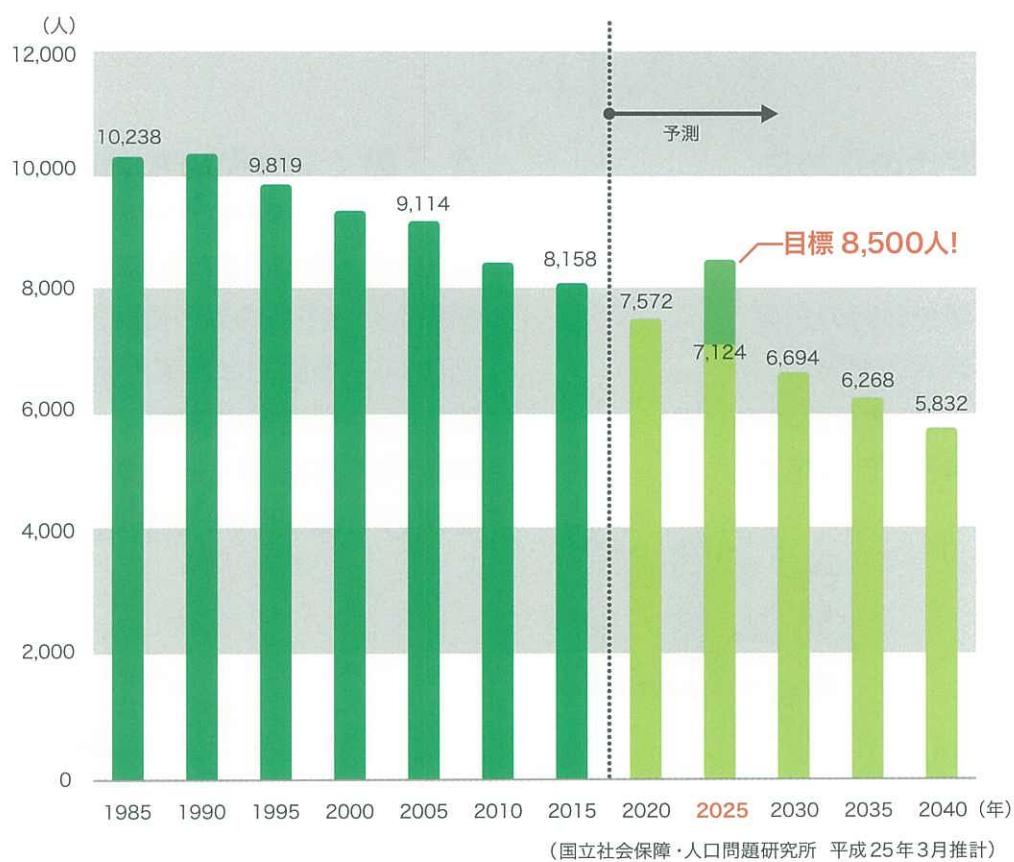
## 4.目標

### <人口目標>

「**2025年(H37)の人口目標を8,500人とします。**」

「住民がずっと住み続けられる島づくり」と「交流人口・定住人口の増加」はもはや個別の政策ではなく、あらゆる分野に関わる人が立場を超えて密接に連携して、初めて実現できるものです。第2次久米島町総合計画では、10年後の島の目標人口を8,500人とし、そこに向けて官民一体となり、それぞれが「**自分ごと**」としてこの問題に取り組んで行くことを目指します。

### ►久米島町の人口の推移と予測



### <島づくりの目標>

「**すべての世代が生き活きと暮らせる島づくり**」

島で生まれ育った人、帰ってきた人、移住してきた人。縁あって島に暮らす、すべての人が生涯を通して、安全で生き活きと暮らすことができる島を目指します。

毎年100人のスケールで人口減少する理由の背景を探っていくと、単に産業が活性化し雇用が増えればいい、単に医療体制を充実させれば解決するという単純な施策では済まないことに気付きます。出産から子育て、教育、仕事、老後まで人生のそれぞれの局面でいくつもの「島を離れる」理由となる問題があり、それらの課題は複雑に絡み合っています。当然、それを解決するための施策も総合的・多角的に連携するものでなくてはなりません。

## 5. 施策の柱

### すべての世代が生き生きと暮らせる島づくり



#### 1 「生まれる」世代のために

- 施策1 出産できる島の実現
- 施策2 出産サポートの充実



#### 3 「学ぶ」世代のために

- 施策7 幼児教育の充実
- 施策8 小中学校教育の充実
- 施策9 高等教育の充実
- 施策10 文化・社会教育環境の充実
- 施策11 生涯学習体制の充実



#### 5 「暮らす」すべての世代のために

- 施策18 交通の便利な島づくり
- 施策19 安全な水の安定供給
- 施策20 ゴミのない島づくり
- 施策21 環境を守る下水道・し尿処理
- 施策22 安心して暮らせる島づくり
- 施策23 災害に強い島づくり
- 施策24 快適な住環境づくり
- 施策25 島民の健康づくり推進

#### 2 「育つ」世代のために

- 施策3 子育て支援体制の充実
- 施策4 子どもの遊び場の充実
- 施策5 発達障がい児の支援充実
- 施策6 子ども健康プロジェクトの推進



#### 4 「働く」世代のために

- 施策12 連携する産業振興体制づくり
- 施策13 くらしの立つ農業地域づくり
- 施策14 多面的な漁業の振興
- 施策15 製造業の振興
- 施策16 商業・サービス業の振興
- 施策17 働きやすい職場環境の整備



## 6 「老いる」世代のために

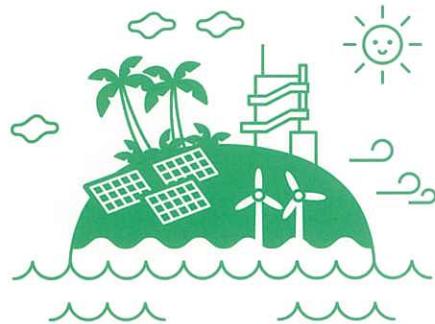
- 施策29 高齢者の生きがいある暮らしづくり
- 施策30 高齢者の健康増進
- 施策31 高齢者が安心して暮らせる島づくり



## 7 「次世代」のために

- 施策32 新しいビジネスの創出
- 施策33 未来を見据えた人材育成
- 施策34 伝統文化の継承と文化遺産の保護・活用
- 施策35 食糧自給率の向上
- 施策36 再生可能エネルギーによるエネルギー自給率向上

- 施策37 島の豊かな自然遺産の保護・活用
- 施策38 連携する総合計画推進
- 施策39 住民にわかりやすく効率的な行財政運営



### 島に人を惹き付ける

#### 「旅したい」「移住したい」「帰ってきたい」人のために

- 施策40 久米島らしいライフスタイル・ブランドの確立
- 施策41 情報発信力の強化
- 施策42 交流文化の推進
- 施策43 観光の振興
- 施策44 移住定住促進体制の充実



# 第2次久米島町総合計画策定の経緯

## ▶審議会プロセス

第2次総合計画策定において「審議会」は、最終段階での審議にととまらず、計画策定プロセス決定、ワーキングチームメンバー選定の段階から参画し、学識経験者、町の各分野リーダー、役場リーダーが活発な議論を繰り広げながら計画策定における審議を行なった。

第1回 2015年1月21日(水)17:00～19:00

- ・全国の「総合計画」の現状について
- ・第2次久米島町総合計画策定の流れについて
- ・第1次総合計画振り返り・第2次総合計画の方向性確認

第2回 2015年2月23日(月)17:00～19:00

- ・住民アンケート実施時期、方法について
- ・ワーキングチームについて

第3回 2015年3月16日(月)17:00～19:00

- ・住民アンケート原稿の確認
- ・ワーキングチームメンバー及び進め方の確認

第4回 2015年5月25日(月)15:00～17:00

- ・住民アンケート結果報告
- ・ワーキングチーム途中経過報告
- ・第2次総合計画テーマ及び基本的枠組みの確認

第5回 2015年8月24日(月)15:00～17:00

- ・基本構想最終原稿の共有
- ・第2次久米島町総合計画タイトルについて
- ・2025年の久米島町目標人口について

第6回 2015年12月14日(月)10:00～12:00

- ・基本構想最終原稿確認
- ・基本計画概要確認
- ・計画実行に向けての今後の動き

## ►ワーキングチームプロセス

審議会委員より推薦を受けたメンバーが「子育て」「教育」「しごと」「健康」「環境」「観光」の6チームに分かれ、ワークショップ形式で計画策定に参画。それぞれの分野の課題を見つけ、その課題解決のために「自分の立場からできること」「他の分野と繋がってできること」や「民間ができること」「行政ができること」「一緒にできること」などを協議。分野を超えた『連携』と、計画策定後の『実行』に重点を置き、熱心な協議を行なった。

第1回 2015年3月23日(月)14:00～16:00

- ・「総合計画」とは?全国の現状、久米島アイデンティティについて
- ・第2次総合計画策定 体制とスケジュール
- ・テーマ説明
- ・問題の洗い出し

人口減少の観点から一各分野から見た『選ばれない理由』の洗い出し

1. 島の人に選ばれない=島外に出て行ってしまう理由
2. 島出身者に選ばれない=島に帰ってこない理由
3. 島外の人に選ばれない=久米島を訪問先、移住先に選ばない理由

第2回 2015年4月6日(月)14:00～17:00(昼の部)、19:00～22:00(夜の部)

- ・課題発見と課題解決プロセスについて
- ・問題の洗い出し結果共有
- ・原因分析
- ・解決案の検討(現行の施策・活動等の共有)

第3回 2015年4月13日(月)14:00～17:00(昼の部)19:00～22:00(夜の部)

- ・第2回会合 作業結果共有
- ・課題解決策(1)— 自分の分野の問題に対してできること
- ・課題解決策(2)— 他の分野の問題に対してできること

第4回 2015年4月21日(火)14:00～17:00

- ・自分の分野の「課題解決策」振り返り
- ・他分野の「課題解決策」に追記
- ・他分野の意見が組み込まれた、課題解決策の深掘り

## ▶ワーキングチームプロセス後半

第5回 2015年5月18日(月)12:00～13:30

- ・進捗報告
- ・ワーキングチーム意見まとめ、住民アンケート結果共有
- ・第2次総合計画の基本的方向性 確認

第6回 2015年6月3日(月)12:00～13:30

- ・住民ヒアリング、アンケート、ワーキングチームから見えてきた共通テーマの確認
- ・タイトル案検討(タイトル案、タイトルに盛り込みたい要素の抽出、イメージの洗い出し)

第7回 2015年12月7日(月)12:00～13:30

- ・基本構想原稿の確認
- ・タイトル、目標人口の共有
- ・計画実現に向けた動きについて

## ▶役場ワークショップ

行政の立場から見た「島が抱える課題」を抽出し、その解決に向けて「役場ができること」「民間と連携してできること」の洗い出しを行った。また、各課ごとに第1次総合計画を振り返り、第2次総合計画策定プロセスにおける改善点や総合計画をより確実に実現するための方法について議論した。

■第1回 2014年12月22日 13:30～15:30

■第2回 2015年1月21日 13:30～15:30

■第3回 2015年2月17日 13:30～15:30

■各課ヒアリング 2015年1月22日 9:00～17:00



## ►ヒアリング

島内のさまざまな立場の方への個別/グループヒアリングを実施。各分野の現場で抱えている課題、島で生活する上での不安や利点、今後の島づくりへの意見など「生の声」を集め計画策定プロセスでの課題抽出や施策策定の基盤とした。

町議会議長、副議長、議員／第1次総合計画策定委員／小学校校長、教員／中学校校長、教員／久米島高校校長、教員／公立久米島病院長、看護部長、医師、看護師／観光協会／観光振興基本計画策定委員／ホテル支配人、従業員／商工会事務局職員、会員／畜産農家／車海老養殖業者／飲食店経営者、従業員／食品メーカー関係者／久米島ホタル館館長、職員／FMくめじまパーソナリティ／社会福祉協議会職員／母子保健推進員／子育てサークル「にじのひろば」スタッフ、利用者／町婦人会役員／NPO法人くめじま／一般社団法人久米島の海を守る会／久米島郷友会会員／三鳥会会員／久米島観光大使／島外からの移住者／島外から嫁いできた子育てママたち／子ども会役員など約120名



## ►住民アンケート

実施:2015年3月20日回収 回答数:918部(一般 510部、中高生408部)

町内の全世帯(3,915世帯)に1部ずつ配布。また役場、コンビニエンスストア、Aコープに設置した回収ボックス脇にもアンケート用紙を設置したほか、久米島町ホームページからもダウンロードできる形とした。中学校、高校でも同一のアンケートを全校生徒に配布。回答から得られたデータや意見を計画策定プロセスでの課題抽出や施策策定の基盤とした。



## 第2次久米島町総合計画 審議会委員名簿

※枠内に名前を併記した委員は途中で交代した委員

委員区分	委員名	肩 書
1	学識経験者	儀間 敏彦 東海大学 教授
2		深谷 幸雄 公立久米島病院 病院長
3		島村 一司 久米島校長会 会長
4	町議会議員	幸地 猛・盛本 實 久米島町議会 議員
5	町教育委員会	平良 弘光 久米島町教育委員会 委員
6	町農業委員会	仲村渠 勝枝 久米島町農業委員会 委員
7	公共団体 役員及び職員	嘉手苅 一 久米島商工会 会長
8		比嘉 譲 久米島町観光協会 会長
9		大道 弘・上江洲 毅 JA おきなわ久米島支店 支店長
10		渡名喜 盛二 久米島漁業協同組合 代表理事組合長
11		松元 徹 久米島紬事業協同組合 理事長
12		儀間 一美 チーム久米島 代表
13		宮平 厚子 母子保健推進員
14	町役場職員	儀間 由紀 出納室 室長
15		田端 智 福祉課 課長
16		仲村渠 一男 産業振興課 課長
17		上里 浩 教育課 課長



## ワーキングチーム名簿

※枠内に名前を併記した委員は途中で交代した委員

チーム	氏名	所属
子育てチーム	岩西 こころ	久米島町役場 町民課
	木下 康子	母子保健推進員
	國吉 佳代	久米島町社会福祉協議会
	與座 泉	母子保健推進員
	吉永 みゆき	久米島町役場 企画財政課
	渡辺 幸	公立久米島病院
教育チーム	糸数 真由美	久米島町教育委員会 委員
	大田 直樹・當間 直也	久米島町教育委員会 教育課
	佐久田 勇	久米島町社会福祉協議会
	仲地 倫菜	公立久米島病院
	長濱 光邦	久米島町青年団協議会
	比嘉 正美	久米島紬事業協同組合
	松茂良 尚哉	久米島西中学校
	山元 朝弥	久米島そろばん教室
	上江洲 毅・大田 喜信	JA おきなわ 久米島支店
しごとチーム	宇久里 隼人	久米島町役場 産業振興課
	喜納ひろみ	久米島商工会女性部
	幸地 和史	久米島町役場 プロジェクト推進室
	城間 清国	久米島漁業協同組合
	日高 悠平	株式会社 沖縄長寿苑
	屋比久 彰	久米島商工会青年部
	山城 昌泉	久米島商工会青年部
	安里 順	久米島町役場 福祉課
健康チーム	新垣 美鈴	公立久米島病院
	宇根 哲志	合資会社 生活 ing
	津波 勝代	公立久米島病院
	友寄 静香	合資会社 生活 ing
	山里 昌樹	久米島町役場 福祉課
	湯本 律子	公立久米島病院
	吉本 景太	久米島町社会福祉協議会
環境チーム	大村 健太	久米島町観光協会
	佐藤 直美	久米島ホタルの会
	佐藤 文保	久米島ホタル館
	古堅 宗治	久米島町役場 総務課
	安村 良樹	農家
観光チーム	宇江城 久人	FM久米島株式会社
	大城 良乃	久米島町役場 商工観光課
	幸地 伸也	久米島町役場 プロジェクト推進室
	仲宗根 麻衣子	久米島町観光協会
	村吉 政太	久米島紬事業協同組合

事務局：久米島町企画財政課 課長 平田 明／久米島町企画財政課 班長 濱元 尚哉







第2次久米島町総合計画 基本構想  
「夢つむぐ島一島人みんなで織り上げる未来」  
平成28年3月 久米島町 企画財政課  
〒901-3193 沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2870番地  
TEL 098-985-7122 FAX 098-985-7080  
<http://www.town.kumejima.okinawa.jp/>

